

宮古市遺跡分布調査報告書 6

2010.3

宮古市教育委員会（岩手県）

宮古市遺跡分布調査報告書 6

2010.3

宮古市教育委員会（岩手県）

序 文

遺跡分布調査は遺跡の所在を確認するため行われております。宮古市では現在618箇所では遺跡が確認されています。

遺跡には、先人の営みの痕跡が遺構や遺物となって残されています。また遺跡は各時代の様々な遺構や遺物が複雑に重なりながら、長い年月を経て我々の時代に残されてきたものであります。その成り立ちは一様でなく、一つとして同じ遺跡はありません。従ってそれぞれの遺跡すべてが、地域の歴史を知るための貴重な資料であると考えられます。

分布調査の実施により遺跡の所在の把握に努め、遺跡保護の基礎資料を作成することは、遺跡を後世に伝えていくために重要なことといえます。

本書が、遺跡保護の基礎資料として活用されることを望み序文といたします。

平成22年3月

宮古市教育委員会
教育長 中屋 定基

例 言

1. 本書は平成19年、20年、21年度に実施した宮古市田老地区、新里地区の遺跡分布調査の報告書である。
2. 報告された遺跡は、あくまでも分布調査実施時点における遺跡の分布と所在を示したものである。
3. 調査の主体は宮古市教育委員会である。調査および本書の執筆、編集は安原が担当し、文化課職員がこれを補佐した。
4. 本文中の遺跡位置図は、北上山系開発調査図（原図縮尺1/5,000）を用いている。
5. 本調査ならびに本報告書作成にあたり、次の方々からご指導、ご教授をいただいた。記して謝意を申し上げます。（敬称略）
斎藤 英樹、佐々木 健、赤沼 みちる
6. 本調査によって採取された資料は宮古市教育委員会が保管する。

目 次

序文

例言

目次

I 調査経過	1
1 調査に至る経過	1
2 調査の目的	1
3 調査計画	1
4 調査体制	2
5 調査の概要	2
II 遺跡の立地と環境	3
1 田老地区の地形的環境	3
2 新里地区の地形的環境	3
III 調査内容	4
1 調査の方法	4
2 調査遺跡と出土遺物	5

挿図目次

第1図	調査地区位置図……………4	第15図	乙部野 I 遺跡採取遺物(2) (山本栄一氏寄贈)……………21
第2図	摂待・館の畑遺跡分布図……………5	第16図	墓目地区(1)遺跡分布図……………25
第3図	水沢 I 遺跡分布図……………7	第17図	墓目地区(2)遺跡分布図……………28
第4図	水沢 I 遺跡採取遺物……………7	第18図	墓目遺跡採取遺物 (田鎖洗馬氏寄贈)……………29
第5図	胡桃畑・上沖・畑地区遺跡分布図…9	第19図	和井内地区(1)遺跡分布図……………31
第6図	向新田・岩瀬張・小堀内南 重津部北地区(1)遺跡分布図……………14	第20図	和井内地区(2)遺跡分布図……………33
第7図	向新田Ⅲ遺跡採取遺物……………15	第21図	和井内地区(3)遺跡分布図……………37
第8図	向新田ⅩⅨ遺跡採取遺物……………15	第22図	刈屋地区(1)遺跡分布図……………42
第9図	青野滝・青野滝南・重津部 重津部北地区(2)遺跡分布図……………17	第23図	刈屋地区(2)遺跡分布図……………46
第10図	青野滝Ⅱ遺跡採取遺物……………18	第24図	下刈屋 I 遺跡採取遺物……………46
第11図	青野滝Ⅲ遺跡採取遺物……………18	第25図	刈屋清水野遺跡採取遺物 (田畑保男氏所有)……………47
第12図	重津部 I 遺跡採取遺物……………18	第26図	刈屋地区(3)遺跡分布図……………52
第13図	乙部野・滝の沢・新田地区 遺跡分布図……………20	第27図	茂市地区遺跡分布図……………55
第14図	乙部野 I 遺跡採取遺物(1)……………21	第28図	腹帯地区遺跡分布図……………59

写真図版目次(1)

写真図版 1	摂待・館の畑遺跡遠景(南東から)……………6	写真図版 16	青野滝Ⅱ・Ⅲ遺跡採取遺物……………18
写真図版 2	摂待遺跡現況(東から)……………6	写真図版 17	重津部 I 遺跡採取遺物……………18
写真図版 3	水沢 I 遺跡遠景(南から)……………7	写真図版 18	青野滝・青野滝南・重津部 重津部北地区遠景(東から)……………19
写真図版 4	水沢 I 遺跡遠景(南から)……………8	写真図版 19	青野滝Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡現況 (東から)……………19
写真図版 5	水沢 I 遺跡現況(北から)……………8	写真図版 20	重津部 I 遺跡現況(東から)……………19
写真図版 6	水沢 I 遺跡採取遺物……………8	写真図版 21	乙部野 I 遺跡遠景(南から)……………22
写真図版 7	加倉遺跡採取遺物……………10	写真図版 22	乙部野 I 遺跡現況(南から)……………22
写真図版 8	加倉遺跡現況(南から)……………10	写真図版 23	新田Ⅰ・滝の沢Ⅰ遺跡現況 (南から)……………22
写真図版 9	畑遺跡現況(南から)……………10	写真図版 24	乙部野 I 遺跡採取遺物(1)……………23
写真図版 10	向新田地区現況(東から)……………15	写真図版 25	乙部野 I 遺跡採取遺物(2) (山本栄一氏寄贈)……………23
写真図版 11	向新田Ⅲ遺跡現況(東から)……………15	写真図版 26	新田Ⅰ遺跡採取遺物……………23
写真図版 12	向新田Ⅲ遺跡採取遺物……………16		
写真図版 13	向新田Ⅳ・ⅩⅢ遺跡採取遺物……………16		
写真図版 14	小堀内南Ⅰ遺跡採取遺物……………16		
写真図版 15	物見峠Ⅱ遺跡採取遺物……………16		

写真図版目次(2)

- 写真図版 27 墓目地区遠景(1)(南から)……………26
- 写真図版 28 墓目二又Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡現況
(南から)……………26
- 写真図版 29 荒矢館・奥堂館跡現況
(南から)……………26
- 写真図版 30 墓目二又Ⅱ遺跡採取遺物……………27
- 写真図版 31 墓目二又Ⅲ遺跡採取遺物……………27
- 写真図版 32 墓目遺跡採取遺物(1)……………28
- 写真図版 33 墓目遺跡採取遺物(2)
(田鎖洗馬氏寄贈)……………28
- 写真図版 34 墓目地区遠景(2)(南から)……………29
- 写真図版 35 墓目館・丹敷館跡現況(南から)……………30
- 写真図版 36 墓目遺跡現況(1)(南から)……………30
- 写真図版 37 墓目遺跡現況(2)(南から)……………30
- 写真図版 38 上松森遺跡遠景(南から)……………31
- 写真図版 39 岩穴大家遺跡採取遺物……………32
- 写真図版 40 和井内平片沢Ⅰ遺跡採取遺物……………32
- 写真図版 41 岩穴大家遺跡現況(1)(東から)……………34
- 写真図版 42 岩穴大家遺跡現況(2)(東から)……………34
- 写真図版 43 戸塚落合遺跡現況(南から)……………34
- 写真図版 44 和井内平方沢Ⅰ遺跡現況(1)
(東から)……………35
- 写真図版 45 和井内平方沢Ⅰ遺跡現況(2)
(東から)……………35
- 写真図版 46 和井内平方沢Ⅱ遺跡現況
(東から)……………35
- 写真図版 47 和井内清水遺跡採取遺物……………39
- 写真図版 48 和井内平方沢Ⅲ遺跡採取遺物……………39
- 写真図版 49 和井内東遺跡採取遺物……………39
- 写真図版 50 和井内釜場遺跡採取遺物……………39
- 写真図版 51 和井内地区遠景(南から)……………39
- 写真図版 52 和井内地区現況(南から)……………40
- 写真図版 53 和井内清水遺跡現況(北から)……………40
- 写真図版 54 和井内西遺跡現況(南から)……………40
- 写真図版 55 刈屋地区(1)遠景(南から)……………43
- 写真図版 56 永田Ⅰ遺跡採取遺物……………43
- 写真図版 57 刈屋中里遺跡採取遺物……………43
- 写真図版 58 刈屋丹野遺跡採取遺物……………43
- 写真図版 59 刈屋一の渡遺跡採取遺物……………43
- 写真図版 60 刈屋地区(2)遠景(南から)……………47
- 写真図版 61 刈屋地区(2)現況(南から)……………48
- 写真図版 62 刈屋清水野遺跡現況(北から)……………48
- 写真図版 63 刈屋日向遺跡採取遺物……………48
- 写真図版 64 刈屋古館跡採取遺物……………48
- 写真図版 65 下刈屋Ⅰ遺跡採取遺物(1)……………49
- 写真図版 66 下刈屋Ⅰ遺跡採取遺物(2)……………49
- 写真図版 67 下刈屋Ⅰ遺跡採取遺物(3)……………49
- 写真図版 68 下刈屋Ⅱ遺跡採取遺物……………49
- 写真図版 69 刈屋清水野遺跡採取遺物(1)……………49
- 写真図版 70 刈屋清水野遺跡採取遺物(2)
(田畑保男氏所有)……………50
- 写真図版 71 刈屋清水野遺跡採取遺物(3)
(田畑保男氏所有)……………51
- 写真図版 72 北山曲沢Ⅰ遺跡現況(南から)……………53
- 写真図版 73 陰寺館跡現況(北東から)……………53
- 写真図版 74 北山曲沢Ⅰ遺跡採取遺物……………53
- 写真図版 75 茂市地区遠景(南東から)……………56
- 写真図版 76 茂市地区現況(南東から)……………56
- 写真図版 77 袋地遺跡現況(南から)……………56
- 写真図版 78 和見久保遺跡採取遺物……………57
- 写真図版 79 茂市新墓遺跡採取遺物……………57
- 写真図版 80 袋地遺跡採取遺物……………57
- 写真図版 81 腹帯地区現況(東から)……………59
- 写真図版 82 腹帯配石遺構群現況(西から)……………60
- 写真図版 83 腹帯Ⅱ遺跡現況(東から)……………60
- 写真図版 84 腹帯Ⅲ遺跡現況(北から)……………60
- 写真図版 85 腹帯館跡採取遺物
(佐々木吉孝氏寄贈)……………60
- 写真図版 86 腹帯配石遺構群採取遺物……………61
- 写真図版 87 腹帯Ⅰ遺跡採取遺物……………61
- 写真図版 88 腹帯Ⅱ遺跡採取遺物……………61
- 写真図版 89 腹帯Ⅲ遺跡採取遺物……………61

I 調査経過

1 調査に至る経過

平成17年6月に宮古市と田老町、新里村が合併し、新しい宮古市が発足した。

これ以前から合併に向けた事務レベルでの検討会が各市町村とのあいだで開かれ、この中で市町村での遺跡の取り扱いについて協議がされた。中でも、基礎的な情報である遺跡の所在の把握がまだ不十分と想定される地区について、この把握にどう努めるかが合併後の課題として持ち上がった。

課題となった遺跡の所在把握は、遺跡の保護上不可欠であり速やかな把握が必要との判断から、合併の次年度、平成18年度から分布調査を実施することとなった。

2 調査の目的

遺跡の適切な保護のため、これまで把握されていなかった遺跡の所在や周知遺跡の範囲等の確認を行い、遺跡保護の基礎資料を作成するものである。市内には現在618箇所の遺跡が確認されている。このうち田老地区には平成18年度時点で63箇所、新里地区では46箇所が存在する。これは昭和36年～昭和49年までに行われた分布調査の成果に基づいたものである。

宮古市をはじめ各市町村でこれまでに数多くの発掘調査が行われ、その結果遺跡に関する新たな知見が得られてきた。そこで、これまでの発掘調査の成果や経過を踏まえつつ、遺跡のあり様についてより詳しく把握するため、改めて分布調査を行うものである。

また、公共事業工事や民間事業者による開発行為により遺跡保護のための調整が日頃計られている。これらの調整協議にあたり、より精度の高い対応が求められるなか、各遺跡のより詳しい情報が必要となっていることも調査実施の経過としてある。

3 調査計画

遺跡分布調査は5年を期間として計画し実施している。

現地踏査は、平成18年度から開始し、19年度までの2ヵ年で田老地区、平成20、21年度で新里地区を調査した。平成22年度はそれまでの調査成果について補足調査を行う。

調査成果については、平成19年度は田老地区南側について報告書を刊行した。平成21年度は田老地区の北側と新里地区の分布状況について本書にて報告をした。平成22年度には、5ヵ年の調査成果をまとめた報告を予定している。

4 調査体制

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	中屋 定基
調査総括	元田秀一	宮古市教育委員会	文化課長 (平成19年度～平成20年度)
	上屋敷正明	〃	文化課長 (平成21年度～)
事務担当	箱石憲一	〃	文化課副主幹 (平成17年度～平成21年7月)
	久坂英夫	〃	文化課副主幹 (平成21年7月～)
	竹下将男	〃	文化課文化財担当長 (平成19年度～)
	高橋憲太郎	〃	文化課主査 (平成17年度～)
	鎌田祐二	〃	文化課主査 (平成20年度～)
調査員	布谷義彦	〃	文化課主任文化財調査員 (平成20年度～)
	加納由美	〃	文化課主任文化財調査員
	安原 誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主任文化財調査員
	阿部 豊	〃	文化課埋蔵文化財調査員
	江口邦泰	〃	文化課埋蔵文化財調査員

分布調査・資料整理作業員

佐々木信晴 扇田正義 鈴木祥一 米澤豊 崎田妙子 佐々木厚子 高橋美穂

5 調査の概要

(平成19年度)

分布調査 平成19年11月12日～同年11月28日

室内作業 平成19年11月29日～平成20年1月28日

調査地点 宮古市田老字小堀内、向新田、水沢、畑、胡桃畑、摂待、下摂待、和野

(平成20年度)

分布調査 平成20年11月7日～同年12月12日

室内作業 平成20年12月15日～平成21年2月16日

調査地点 宮古市刈屋、茂市、墓目

(平成21年度)

分布調査 平成21年10月13日～同年11月9日

室内作業 平成21年11月10日～平成22年3月3日

調査地点 宮古市刈屋、和井内、腹帯

II 遺跡の立地と環境

1 田老地区の地形的環境

田老地区の地形は、大勢として西側が高く、東側に向って低くなる。田老地区の西側は高山性の山地、中・低山性の山地となり、東側は丘陵と区分される。この地形の違いは地質も起因しており、西側は花崗岩類、東側は古生界堆積岩類を起源とする。

西側の山地は峠の神山（標高1229.7m）をはじめ、メンズクメ山、刺柄岳山、明神山などの峰々が続く。東側の丘陵は小本丘陵と呼ばれ、太平洋の海岸線に沿って見られる。海岸線から幅3～4kmで岩泉から宮古まで南北に及び確認できる。小本丘陵は海岸段丘が開析されて形作られたものである。岩泉町では広い段丘面を見ることができるが、田老地区においてはわずかに段丘面は残すのみである。

また田老地区には大きな河川がなく、河川の浸食作用によって形成される小規模な河岸段丘がわずかに見られるほかは台地に相当する地形はごく僅かである。この台地のほかに平野や低地の形成は田老川最下流部の三角州性平野のほかは、河川に沿って形成された谷底平野のみである。田老地区において、遺跡は小本丘陵の段丘面と谷底平野に多く分布する傾向が伺える。

2 新里地区の地形的環境

新里地区は宮古市の西側、岩泉町と川井村に接する位置にある。北上山地のなかにあり、四方を山に囲まれている。地形は北・西に高く、北に峠の神山（1229.7m）、堺の神岳（1319m）、西に害鷹森（1304.6m）、猴舞山（1088m）がある。

地区の南寄りを閉伊川が流れ、その支流に刈屋川がある。これらの河川によってできた谷底平野に沿って農耕地が開かれている。

新里地区は、地質的には北部北上帯に区分され、主に二疊紀以後の地層（チャート、粘板岩、砂岩、シャルルスタイン等）が分布している。

新里地区の遺跡は、閉伊川とその支流の刈屋川によってできた谷底平野に多く分布する傾向がある。また、中世の城館跡はこの河川に近接し周囲の眺望が利く丘陵にある。

Ⅲ 調査内容

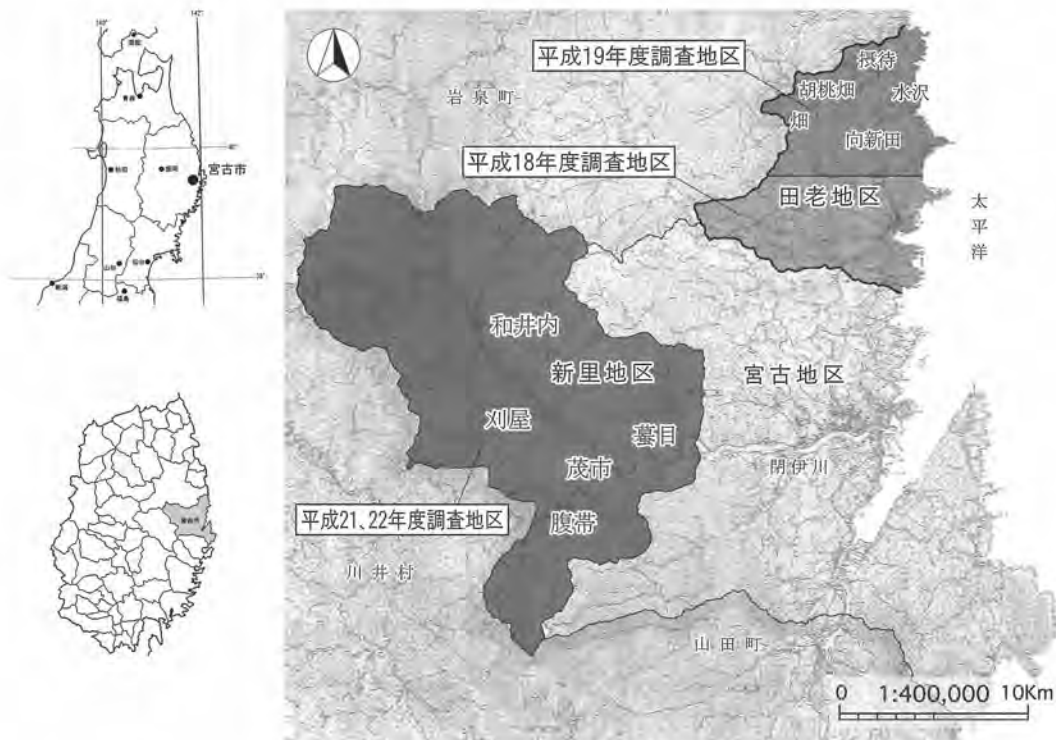
1 調査の方法

調査は平成18年度に田老地区南側、平成19年度にその北側を対象に調査を行った。平成20年度、21年度は新里地区を対象に調査を行った。

現地踏査は岩手県遺跡情報検索システムや住宅地図、北上山系開発調査図を用いて行った。周知遺跡とその周辺、及び点在してある畑地を重点的に確認した。現地では地形の確認や遺物の採取を行い、併せて住民からの聞き取りを行った。遺物の採取にあたり、数多く遺物が散布する遺跡については、文様が残るものなど時代や時期、その遺跡の状況をある程度想定できるものを選んで採取している。

住民から聞き取りも可能なかぎり行い、土地の改変状況や遺物の散布状況について情報を収集し、分布図作成の参考とした。現況で山林、もしくは以前畑地であったものが山林または荒蕪地となっているような地点については、遺物の採取が難しく遺跡か否かの判断が困難なことから踏査を見送った。

分布調査により新たに発見された遺跡や範囲に変更が生じた遺跡については、岩手県教育委員会に届出を行い、岩手県遺跡台帳に掲載されるよう手続きを行っている。



第1図 調査地区位置図

2 調査遺跡と出土遺物

田老地区

かたまき かみせったい しも ほしやま はらいかわ みずさわ みなみ
片巻・上撰待・下撰待・撰待・星山・払川・水沢・水沢南地区

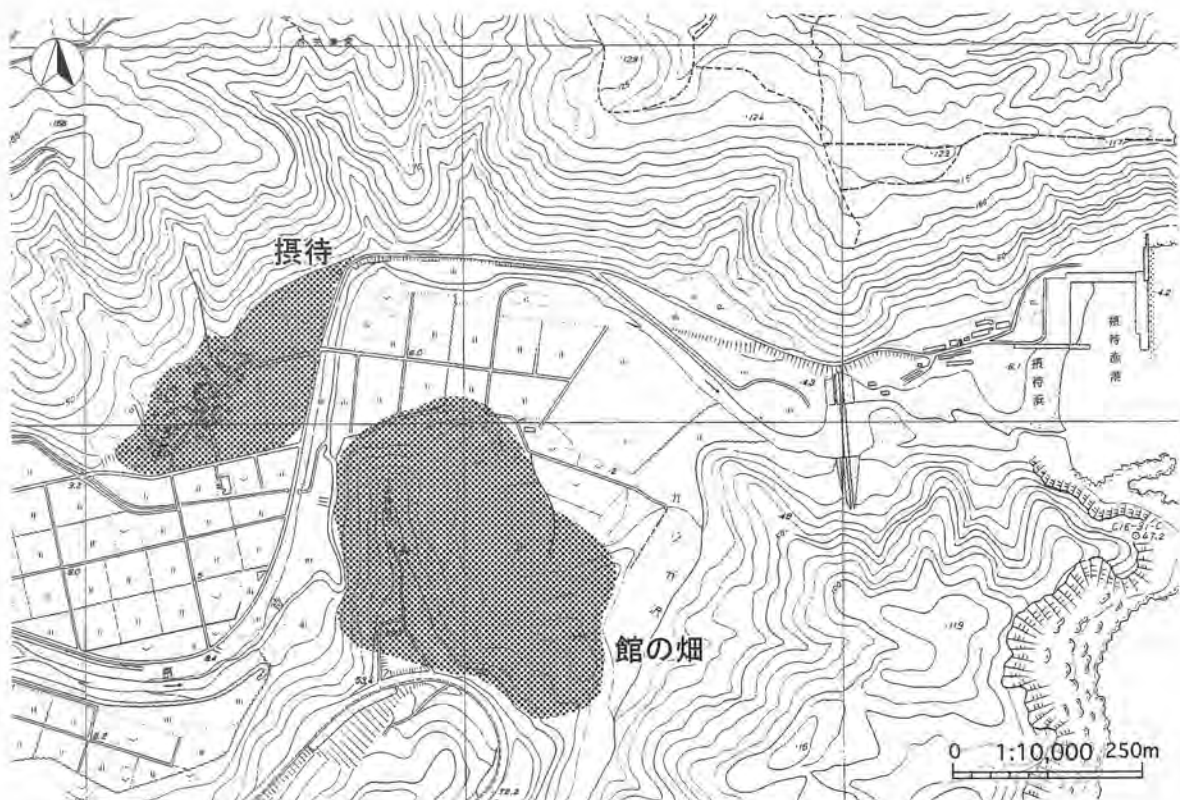
(第2・3・4図、写真図版1～6)

●^{せったい}撰待遺跡 (遺跡コード KG64-2146) (所在地 田老字下撰待)

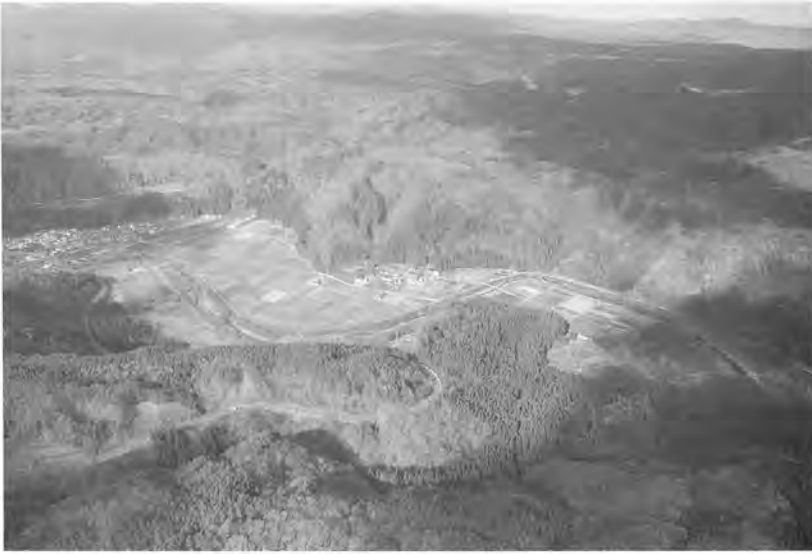
撰待川の左岸にあり、谷底平野にあたる平坦地と北側の斜面部が遺跡と考えられる。現況は宅地となっている。遺物は、畑地が点在するも採取されなかった。

●^{たて はた}館の畑遺跡 (遺跡コード KG64-2168) (所在地 田老字水沢 外)

北側に張り出す尾根とその下の斜面部分が遺跡と考えられる。尾根の先端部には小沼神社が祀られている。現況は山林である。現地は周囲の眺望がよく、撰待漁港や撰待川、また河川沿いにある集落が一望できる。堀跡など城館跡に見られる防御施設の痕跡は確認できなかった。遺物は踏査するも採取されなかった。



第2図 撰待・館の畑遺跡分布図



写真図版1
 摂待・館の畑遺跡遠景（南東から）



写真図版2
 摂待遺跡現況（東から）

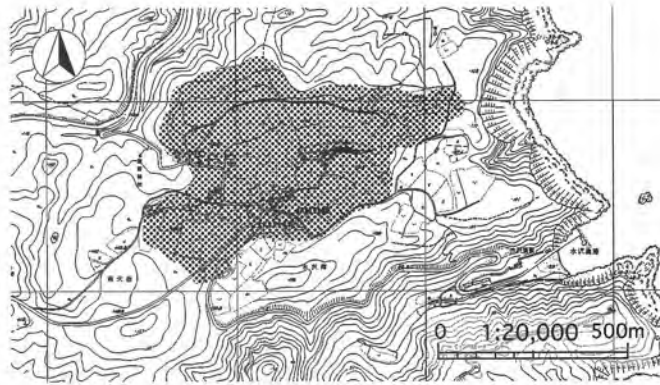
●^{みずさわ 1}水沢Ⅰ遺跡（遺跡コード KG74-0261）（所在地 田老字水沢 外）

水沢Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ遺跡を統合する。この3箇所の遺跡は近接した位置にあり、かつ地形的にも連続することから統合した。

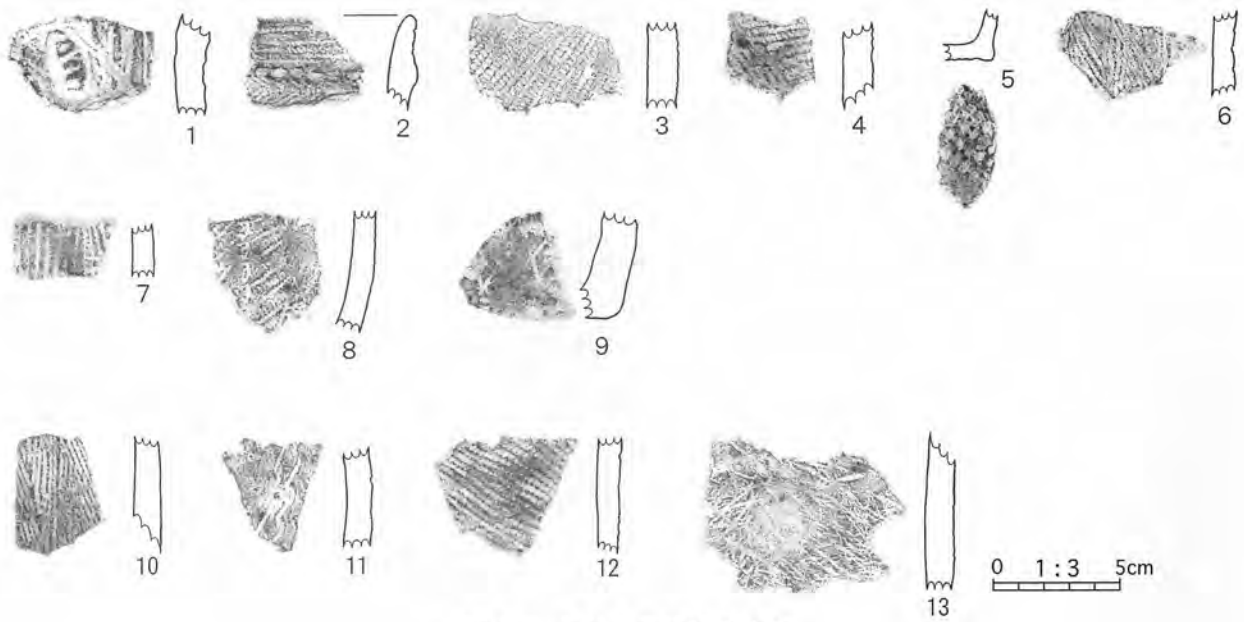
遺跡は、丘陵とそこからなだらかに続く緩い谷部分とその範囲と考えられる。聞き取りにより、地元では昔から土器や石器が数多く採取できる場所として知られていた。現況は畑地と宅地になっている。

踏査により、聞き取りのとおり丘陵とその南側の谷部分で多くの土器や石器を広い範囲で採取した。遺物は遺跡範囲外となっていた地点からも採取した。

〔時代〕 縄文時代（主に中期） 〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器、石器



第3図 水沢 I 遺跡分布図



第4図 水沢 I 遺跡採取遺物



写真図版3 水沢 I 遺跡遠景
(写真中央が水沢 I 遺跡・南から)



写真図版4 水沢 I 遺跡現況（南から）



写真図版5 水沢 I 遺跡現況（北から）



写真図版6 水沢 I 遺跡採取遺物

くるみはた かみおき はた
胡桃畑・上沖・畑地区 (第5図、写真図版7～9)

●^{かくら}加倉遺跡 (遺跡コード KG73-1003) (所在地 田老字胡桃畑)

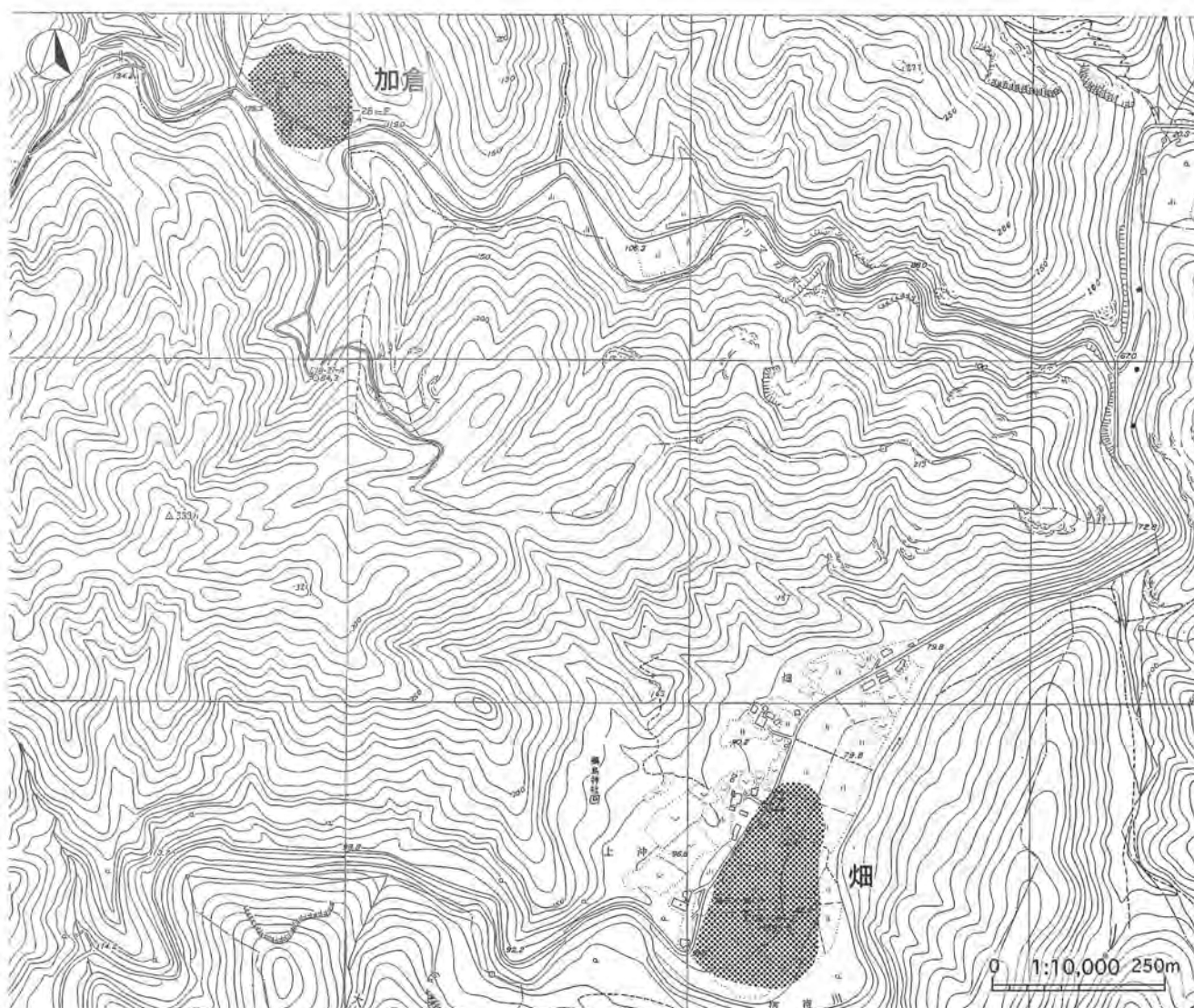
遺跡は摂待川の支流カリマガ沢に面した平坦地にある。現況は田圃と畑地であり、一部宅地となっている。遺跡北側の畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●^{はた}畑遺跡 (遺跡コード KG73-2120) (所在地 田老字上沖 外)

遺跡は摂待川に面した緩傾斜地にある。現況は田圃と畑地、一部宅地となっている。遺物は、畑地区公民館東側の畑地でわずかだが縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



第5図 胡桃畑・上沖・畑地区遺跡分布図



写真図版7 加倉遺跡採取遺物



写真図版8 加倉遺跡現況
(写真中央が遺跡・南から)



写真図版9 畑遺跡現況 (南から)

向新田・岩瀬張・小堀内南・重津部北地区(1) (第6～8図、写真図版10～15)

- 向新田Ⅰ遺跡¹ (遺跡コード KG74-2099) (所在地 田老字向新田)

遺跡は、およそ東西にひろがる尾根にある。現況は草地、畑地、一部宅地となっている。遺物は踏査するも採取されなかった。

- 向新田Ⅱ遺跡² (遺跡コード KG74-2069) (所在地 田老字向新田)

向新田Ⅰ遺跡の北側、谷地形から尾根にかけて遺跡となっている。現況は田圃、草地となっている。遺物は踏査するも採取されなかった。

- 向新田Ⅲ遺跡³ (遺跡コード KG74-2113) (所在地 田老字向新田)

向新田Ⅲ、向新田Ⅴ、向新田Ⅶ、向新田Ⅷ遺跡を統合し、遺跡の範囲を変更する。

遺跡は丘陵にあり、現況は宅地と一部畑地となっている。遺物は畑地から縄文土器と石器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器、石器

- 向新田Ⅳ遺跡⁴ (遺跡コード KG74-2120) (所在地 田老字向新田)

向新田Ⅳ遺跡と向新田Ⅵ遺跡を統合し、遺跡の範囲を変更する。

遺跡は、向新田Ⅳ遺跡が谷地形に立地し、向新田Ⅵ遺跡がその北側の尾根にある。遺物は向新田Ⅳ遺跡としていた畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器

- 向新田Ⅸ遺跡⁹ (遺跡コード KG74-2104) (所在地 田老字向新田)

遺跡は向新田Ⅲ遺跡の東側にあり、これと近接する。グリーンピア田老建設により消失したものと考えられる。遺物は踏査するも採取されなかった。^[註1]

- 向新田Ⅹ遺跡¹⁰ (遺跡コード KG74-1177) (所在地 田老字向新田)

遺跡は向新田Ⅸ遺跡の東側にあり、これと近接する。グリーンピア田老建設により消失したものと考えられる。遺物は踏査するも採取されなかった。^[註1]

●向新田 X¹¹ I 遺跡 (遺跡コード KG74-1290) (所在地 田老字向新田)

遺跡は向新田 X¹⁰ 遺跡の東側あり、これと近接する。遺跡の西側はグリーンピア田老建設により消失したものと考えられる。^[註1] 遺跡東側は大きく改変されていないように観察された。遺物は踏査するも採取されなかった。

●向新田 X¹² II 遺跡 (遺跡コード KG74-1169) (所在地 田老字向新田)

遺跡は向新田 X¹¹ I 遺跡の北側にあり、これと近接する。現況は山林である。遺跡の南西側はグリーンピア田老建設により消失したものと考えられる。^[註1] 遺物は踏査するも採取できなかった。

●向新田 X¹³ III 遺跡 (遺跡コード KG74-1068) (所在地 田老字向新田)

向新田 X¹³ III、向新田 X¹⁴ IV 遺跡を統合し、範囲を変更する。遺跡は丘陵にあり、現況は荒蕪地で一部畑地となっている。遺物は遺跡西側の畑地で縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器

●向新田 X¹⁵ V 遺跡 (遺跡コード KG74-1028) (所在地 田老字向新田)

向新田 X¹⁵ V、向新田 X¹⁷ VII 遺跡を統合し、範囲を変更する。遺跡は谷地形にあるが、なかでも丘のようにやや周囲より高い地点にある。現況は畑地と宅地となっている。遺物は上水沢バス停東側の畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器

●向新田 X¹⁶ VI 遺跡 (遺跡コード KG74-1034) (所在地 田老字岩瀬張)

遺跡は向新田 X¹⁵ V 遺跡から国道45号線をはさみ西側にある。尾根が遺跡となっている。現況は牧草地である。地権者からの聞き取りで、遺跡にあたる地点は牧草地にするため大規模に造成をしたとのこと。遺物は踏査するも採取されなかった。

[註1]

昭和54年度にグリーンピア田老建設のため、施設予定地の27haを対象に試掘調査が行われている。その調査成果は小堀内 I 遺跡調査報告書として刊行されている。しかし、小堀内 I 遺跡として登録されている遺跡は現時点ではなく、また、報告書からは調査地点を特定することができない。報告書でいう新規発見された遺跡がどれで、その遺跡のどこをどのように試掘したのかも記述がなく不明である。

●向新田ⅩⅨ遺跡¹⁹ (遺跡コード KG74-1190) (所在地 田老字向新田)

新規発見された遺跡である。現況は田圃と畑地、一部宅地となっている。遺物は谷地形にあり、畑地から縄文土器と石器を採取した。遺跡の範囲については、遺物が採取できた谷と、この北側にある尾根を含めたものとした。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器、石器

●小堀内南Ⅰ遺跡¹ (遺跡コード KG84-0026) (所在地 田老字小堀内南)

新規発見された遺跡である。国道45号線に近接し、この西側にある。現況は宅地と畑地になっている。遺物は畑地から縄文土器と埴塼を採取した。

[時代] 縄文時代、古代以降 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、埴塼

●小堀内遺跡 (遺跡コード KG84-0110) (所在地 田老字小堀内南)

遺跡は、谷とその北と南の尾根をその範囲とする。現況は山林である。遺物は踏査するも採取されなかった。

●乙部遺跡^{おとべ} (遺跡コード KG84-0069) (所在地 田老字重津部北)

遺跡は尾根にあり、現況は畑地で一部宅地となっている。遺物は踏査するも採取されなかった。

●物見峠Ⅰ遺跡¹ (遺跡コード KG84-0233) (所在地 田老字重津部北 外)

遺跡は丘陵にあり、地形は平坦である。現況は山林である。遺物はわずかだが縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器

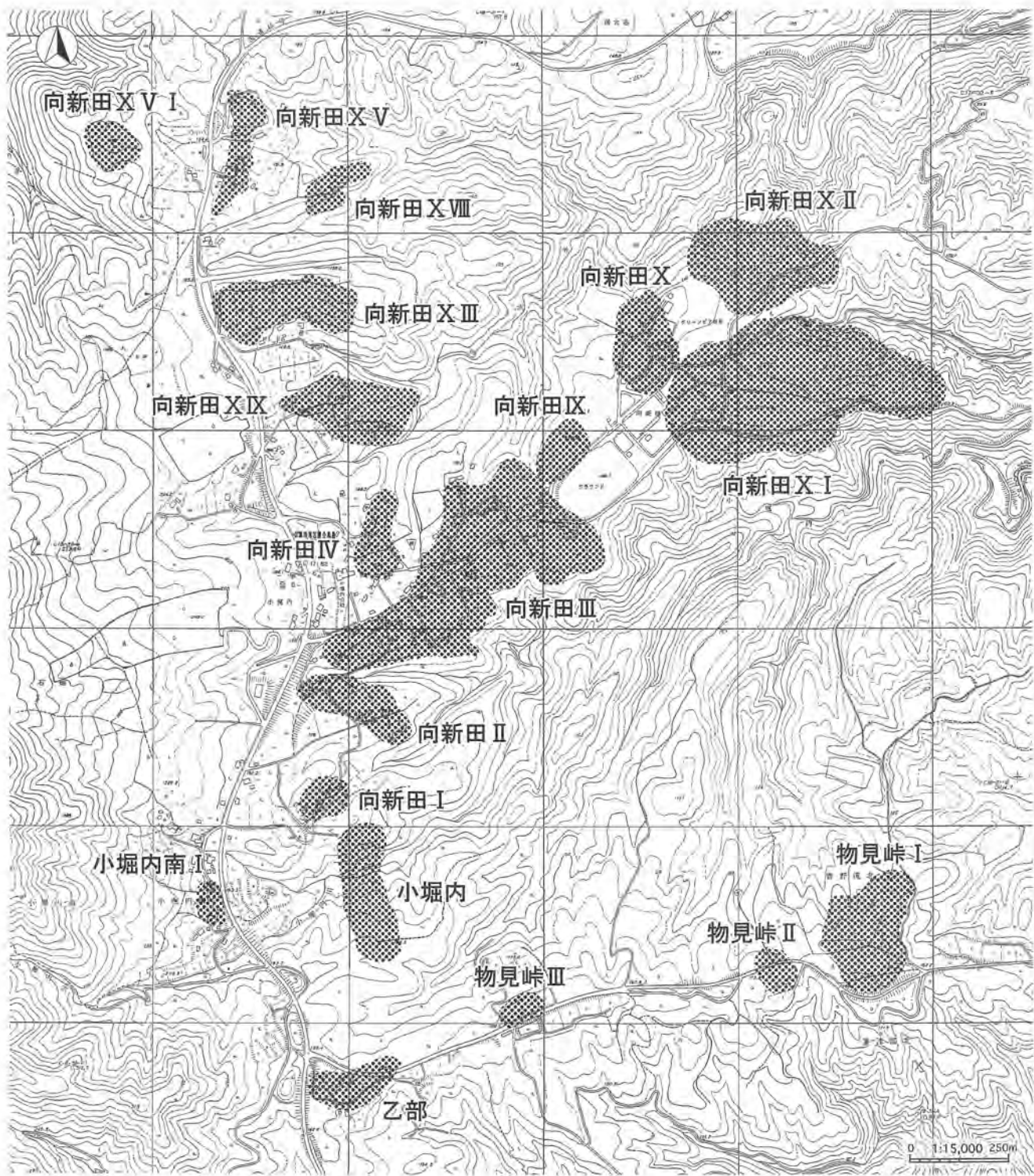
●物見峠Ⅱ遺跡² (遺跡コード KG84-0240) (所在地 田老字重津部北 外)

遺跡は物見峠Ⅰ遺跡の西側、これと同じ丘陵にある。地形は南側に緩く傾斜する。現況は畑地と山林である。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

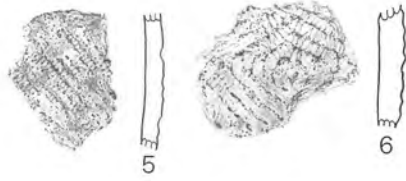
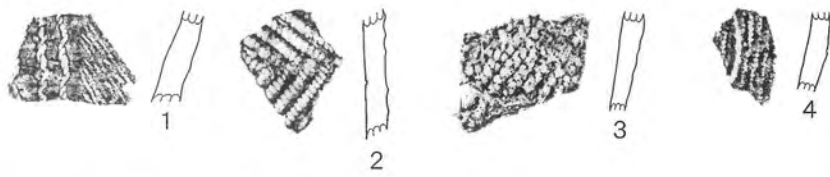
[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器

●物見峠Ⅲ遺跡³ (遺跡コード KG84-0144) (所在地 田老字重津部北 外)

物見峠Ⅱ遺跡の西側、これと同じ丘陵にある。現況は田圃である。遺物は踏査するも採取されなかった。

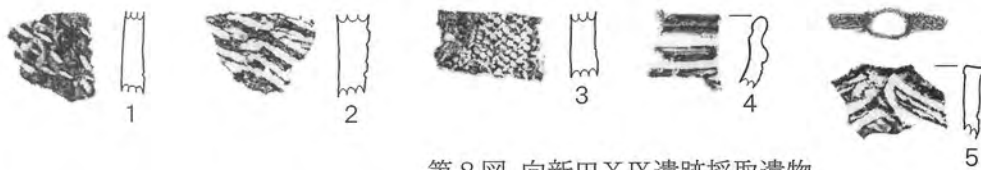


第6図 向新田・岩瀬張・小堀内南・重津部北地区(1)遺跡分布図



0 1:3 5cm

第7図 向新田Ⅲ遺跡採取遺物



0 1:3 5cm

第8図 向新田Ⅸ遺跡採取遺物



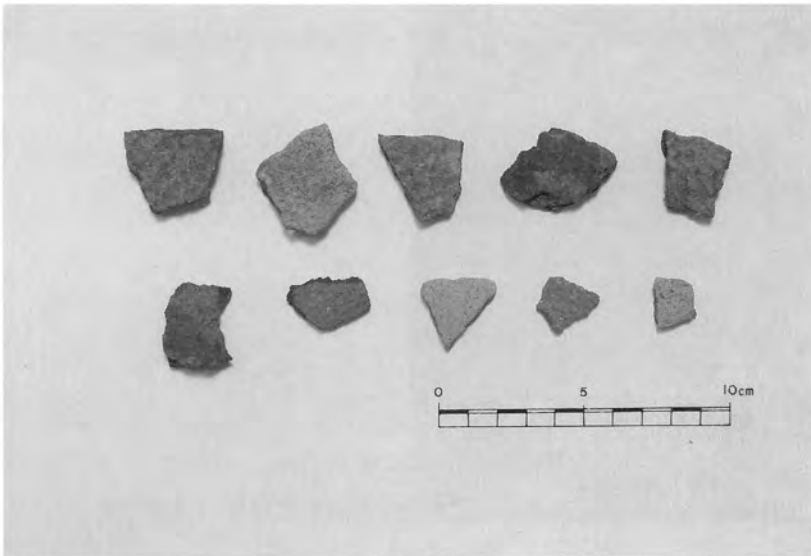
写真図版10
向新田地区現況（東から）



写真図版11
向新田Ⅲ遺跡現況（東から）



写真図版12
向新田Ⅲ遺跡採取遺物



写真図版13
向新田Ⅳ(上段)・ⅩⅢ(下段)遺跡採取遺物



写真図版14 小堀内南Ⅰ遺跡採取遺物



写真図版15 物見峠Ⅱ遺跡採取遺物

あおのたき あおのたきみなみ おもつべ おもつべきた
青野滝・青野滝南・重津部地区・重津部北地区(2) (第9～12図、写真図版16～20)

●¹青野滝Ⅰ遺跡 (遺跡コード KG84-0379) (所在地 田老字青野滝)

遺跡は海岸に面した平坦地にある。現況は荒蕪地である。遺物は踏査するも採取されなかった。

●²青野滝Ⅱ遺跡 (遺跡コード KG84-0386) (所在地 田老字青野滝)

青野滝Ⅱ、青野滝Ⅲ、青野滝Ⅳ、青野滝Ⅶ遺跡を統合し、範囲を拡張する。遺跡は海岸に面した平坦地にある。現況は畑地と田圃、一部宅地となっている。遺物は点在する畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代(中期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●³青野滝Ⅲ遺跡 (遺跡コード KG84-0384) (所在地 田老字青野滝 外)

青野滝Ⅴ、青野滝Ⅵ遺跡を統合し範囲を拡張する。遺跡は青野滝Ⅱ遺跡の西側、海岸に面した緩やかな斜面にある。現況は宅地と畑地である。遺物は点在する畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

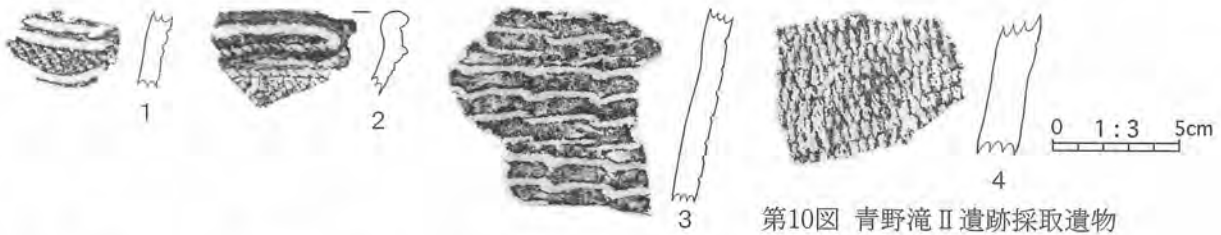


第9図 青野滝・青野滝南・重津部・重津部北地区(2)遺跡分布図

おもつべ 1
●重津部 I 遺跡 (遺跡コード KG84-1259) (所在地 田老字重津部 外)

重津部 I、重津部 II、重津部 III、重津部 IV 遺跡を統合し、範囲を変更する。東西に広がる丘陵にある。現況は宅地と畑地、田圃となっている。遺跡東側の畑地から数多くの土器が採取できた。遺跡内に点在してある畑地からも土器は採取できる。

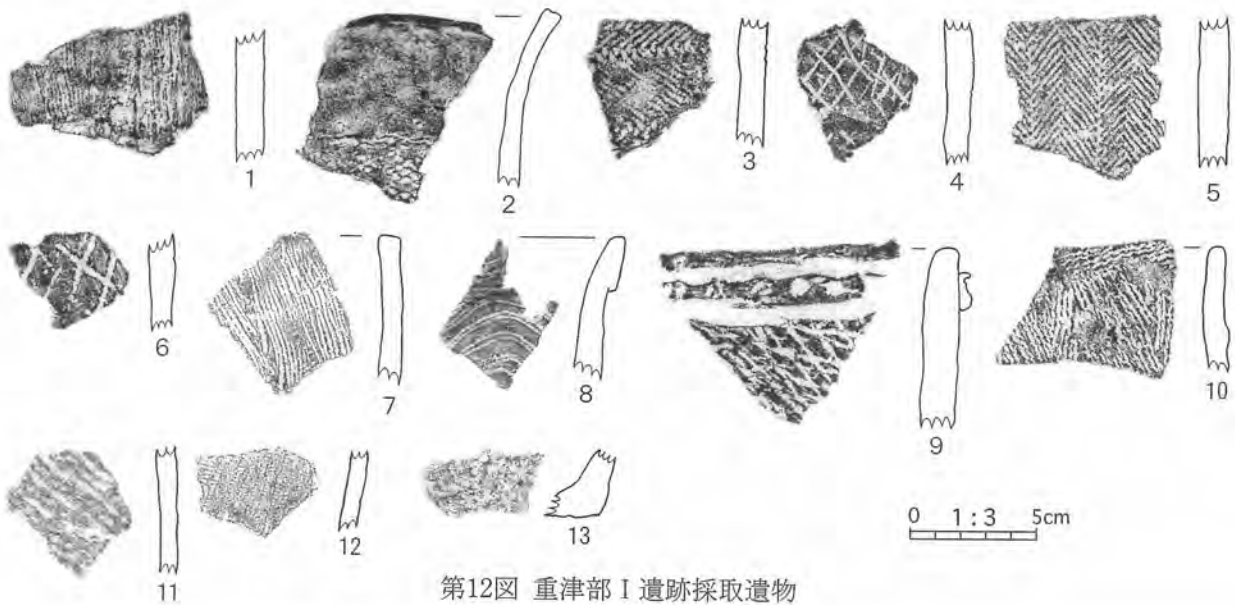
[時代] 縄文時代 (前期・中期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



第10図 青野滝 II 遺跡採取遺物



第11図 青野滝 III 遺跡採取遺物



第12図 重津部 I 遺跡採取遺物



写真図版16 青野滝 II (1~4)・III (5~7) 遺跡採取遺物



写真図版17 重津部 I 遺跡採取遺物



写真図版18 青野滝・青野滝南・重津部・
重津部北地区遠景（東から）



写真図版19 青野滝 I・II・III遺跡
現況（東から）



写真図版20 重津部 I 遺跡現況
（東から）

おとべの たき さわ しんでん
乙部野・滝の沢・新田地区 (第13～15図、写真図版21～26)

●^{おとべの 1}乙部野 I 遺跡 (遺跡コード KG84-2257) (所在地 田老字乙部野)

乙部野里、乙部野浜遺跡を統合し、範囲を変更する。遺跡は、丘陵の平坦な地形にある。現況は宅地と畑地である。遺物は畑地から縄文土器を採取した。畑を耕作中に採取したとして地権者から石斧などの石器が寄贈された。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取資料] 縄文土器、石器

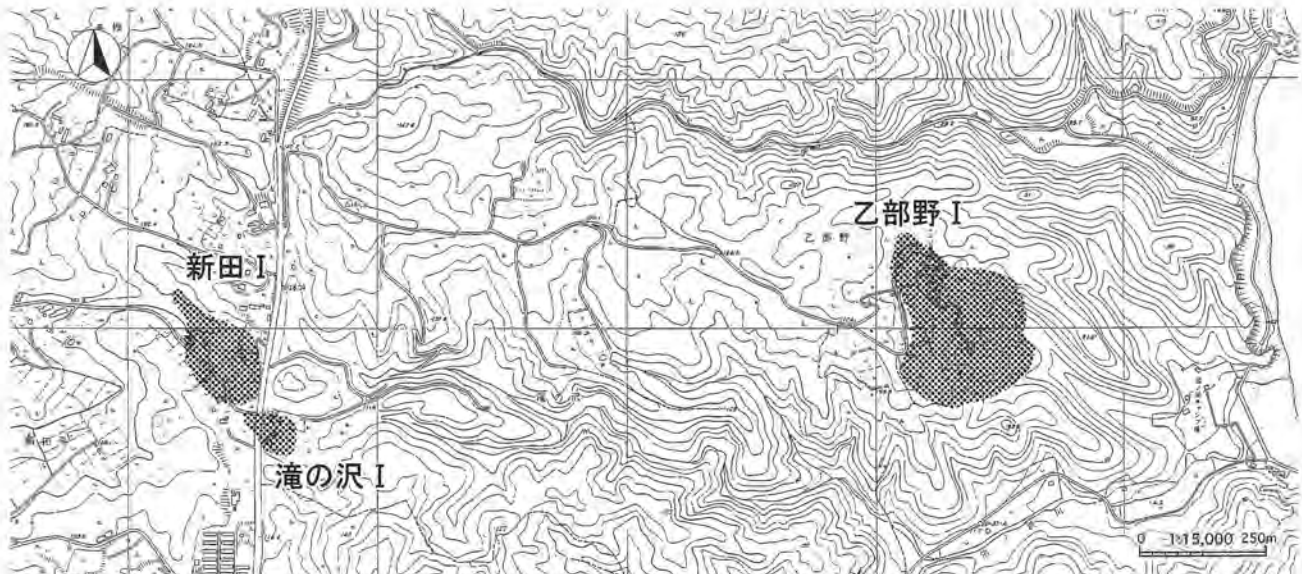
●^{しんでん 1}新田 I 遺跡 (遺跡コード KG84-2152) (所在地 田老字新田)

新規発見された遺跡である。遺跡は尾根にあり、現況は畑地と山林、一部宅地となっている。遺物は主に尾根にある畑地から縄文土器を採取する。遺跡西側、谷部分の畑地からわずかだが縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●^{たき さわ 1}滝の沢 I 遺跡 (遺跡コード KG84-2173) (所在地 田老字滝の沢)

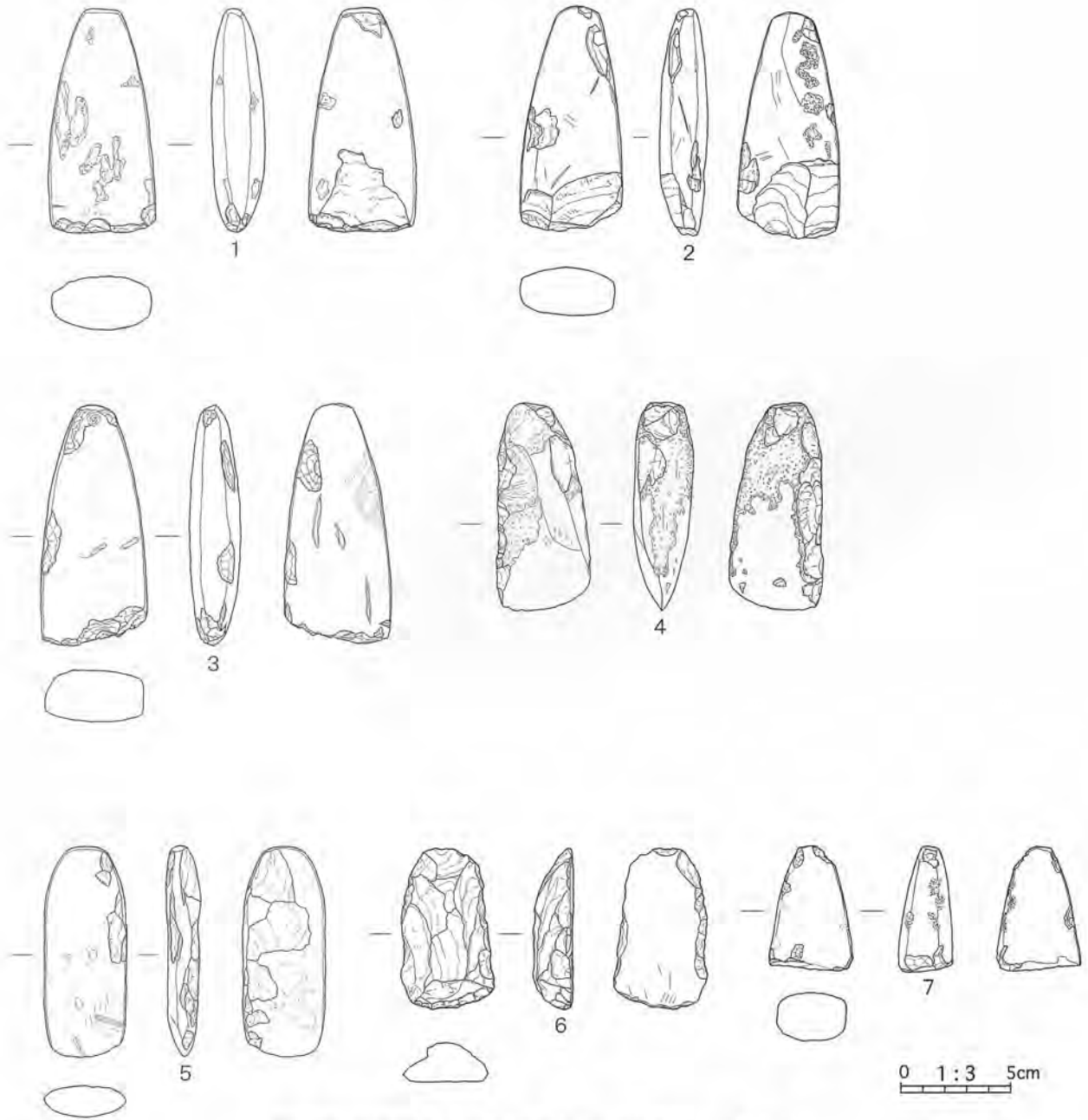
新規発見された遺跡である。新田 I 遺跡の南東側、これに近接してある。谷地形にあり、現況は田圃である。聞き取りにより田圃の地点から以前土器が出土したという情報が得られた。滝ノ沢 I 遺跡は新田 I 遺跡と近接した場所にあるが、それとは高低差がある。よって、新田 I 遺跡とは区別して扱うこととした。遺物は踏査するも採取されなかった。



第13図 乙部野・滝の沢・新田地区遺跡分布図



第14図 乙部野 I 遺跡採取遺物(1)



第15図 乙部野 I 遺跡採取遺物(2) (山本栄一氏寄贈)



写真図版21 乙部野 I 遺跡遠景
(写真中央が乙部野 I 遺跡・南から)



写真図版22 乙部野 I 遺跡現況
(写真中央が遺跡・南から)



写真図版23 新田 I・滝の沢 I 遺跡現況
(写真中央が新田 I・滝の沢 I 遺跡・南から)



写真図版24 乙部野 I 遺跡採取遺物(1)



写真図版25 乙部野 I 遺跡採取遺物(2)
(山本栄一氏寄贈)



写真図版26 新田 I 遺跡採取遺物

新里地区

ひきめ 墓目地区(1) (第16図, 写真図版27~31)

●¹ 墓目二又Ⅰ遺跡 (遺跡コード LG21-0189) (所在地 墓目)

^{ふたまたぐらんの}
二又蔵野遺跡から名称を変更する。遺跡は沢に面した平坦地にある。現況は荒蕪地、一部宅地となっている。遺跡範囲について、西側の斜面部分をその範囲から除いた。遺物は踏査するも採取されなかった。

●² 墓目二又Ⅱ遺跡 (遺跡コード LG21-1118) (所在地 墓目)

新規発見された遺跡である。遺跡は二又川と沢の合流点にある。遺跡は南向きの緩い斜面にある。現況は田圃と畑地、一部宅地となっている。遺物は畑地から縄文土器と石器を採取した。

[時代] 縄文時代(中期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、石器

●³ 墓目二又Ⅲ遺跡 (遺跡コード LG21-1129) (所在地 墓目)

新規発見された遺跡である。遺跡は二又川に面した平坦地にある。現況は畑地と宅地である。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代(後期~晩期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

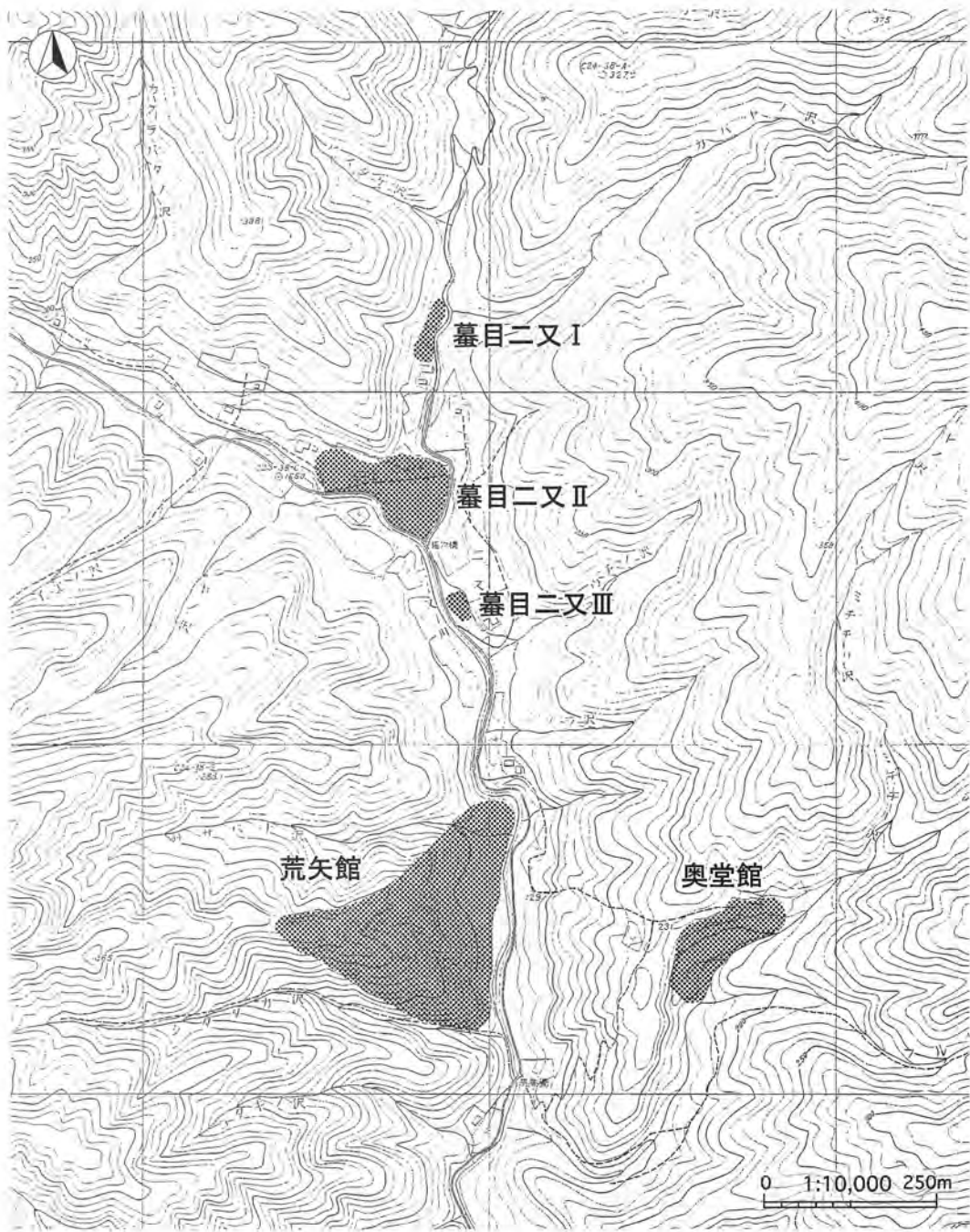
●^{あちやたて} 荒矢館跡 (遺跡コード LG21-1177) (所在地 墓目)

中世の城館跡とされる遺跡である。尾根の東側先端部が遺跡となっている。現況は山林である。中世の城館跡に見られる堀切跡などの防御施設の痕跡は踏査では確認できなかった。

遺跡のある尾根は、東に進むと沢によって狭い尾根となる。狭い尾根をさらに東に下ると途中やや平坦な地形がある。踏査により、遺構の可能性が考えられるのはこの地点だけであった。ただし、この地点もやや平坦というもので自然地形の可能性が考えられる。遺物は採取されなかった。

●^{おくどうだて} 奥堂館跡 (遺跡コード LG21-1273) (所在地 墓目)

中世の城館跡とされる遺跡である。遺跡は尾根とその東側の谷がその範囲となっている。現況は山林と畑地、一部宅地となっている。遺跡周辺も含め踏査するも、中世の城館跡にみられる平場跡や防御施設の痕跡は確認できなかった。遺跡の範囲について、尾根部分はやせ尾根であるためその範囲から除いた。遺物は踏査するも採取されなかった。遺跡は車峠館、二又奥堂ともよばれている。



第16図 墓目地区(1)遺跡分布図



写真図版27 墓目地区遠景(1) (南から)



写真図版28 墓目二又Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ遺跡現況
(南から)



写真図版29 荒矢館・奥堂館跡現況
(南から)



写真図版30 墓目二又Ⅱ遺跡採取遺物



写真図版31 墓目二又Ⅲ遺跡採取遺物

墓目地区(2) (第17・18図、写真図版32～37)

●^{ひきめたて}墓目館跡 (遺跡コード LG31-1214) (所在地 墓目)

中世の城館跡と考えられる遺跡である。墓目集落の北側にある。山全体が遺跡となっている。現況は山林である。尾根には平場跡がみられ、その周囲には堀切跡、もしくは堀切状の落ち込みが確認できた。遺物は踏査するも確認されなかった。遺跡は、^{ふたさきぐちたて}二崎口館・^{あかさかたて}赤坂館ともよばれている。

[時代] 中世以降 [種別] 城館跡 [採取遺物] —

●^{たんじきたて}丹敷館跡 (遺跡コード LG31-1228) (所在地 墓目)

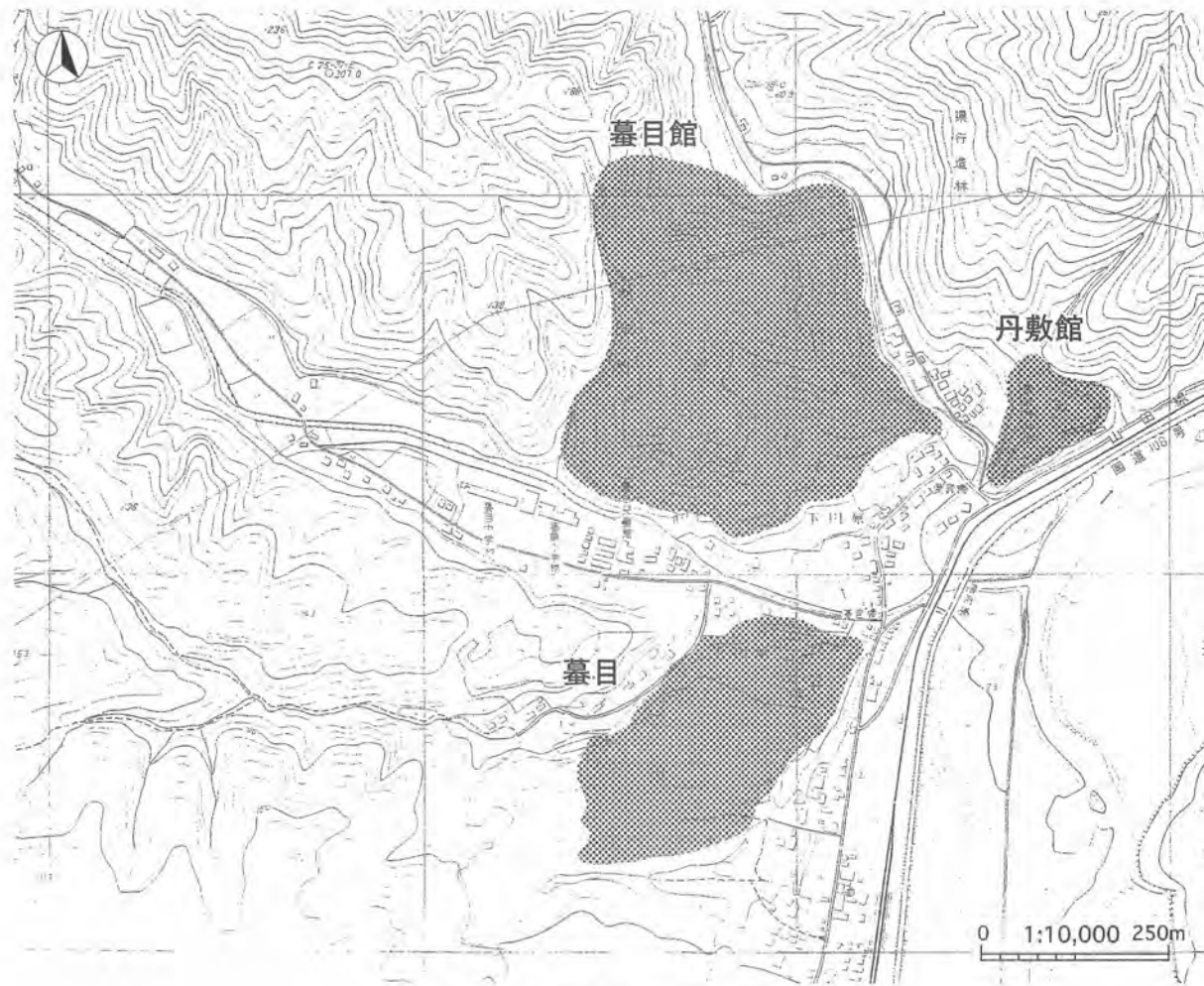
中世の城館跡と考えられる遺跡である。二又川を挟み対岸には墓目館跡がある。北から続く尾根の先端部が館跡である。現況は山林、一部荒蕪地である。尾根はやや平坦になっており、造成された可能性が考えられる。この尾根の北側で堀切状の落ち込みが確認できる。土橋状の痕跡も確認できた。遺物は踏査するも採取されなかった。遺跡は^{ひきめふるだて}墓目古館ともよばれている。

[時代] 中世以降 [種別] 城館跡 [採取遺物] —

●^{ひきめ}墓目遺跡 (遺跡コード LG31-1273) (所在地 墓目)

墓目A・B遺跡を名称変更し、遺跡範囲を拡張した。遺跡は閉伊川と飛ノ沢の合流点にある。平坦な丘陵にあり、現況は畑地と果樹園である。遺物は、主に遺跡の東側から採取した。採取遺物は、縄文土器と石器である。また、遺跡内の畑地から採取したとして、縄文土器、弥生土器、石器、土師器、鉄滓、鉄製品が地権者から寄贈された。

[時代] 縄文時代 (主に中期)、弥生時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、石器



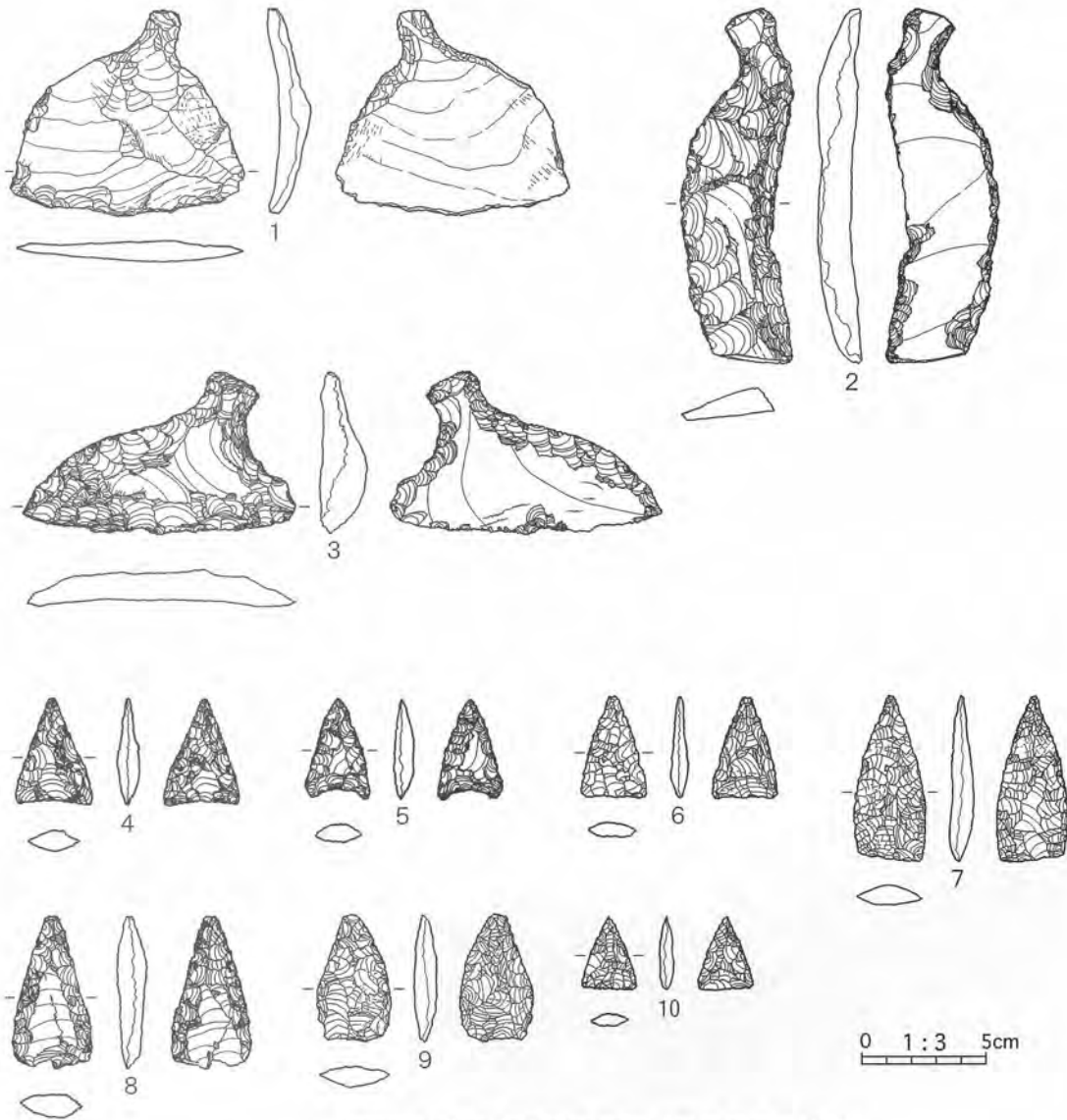
第17図 墓目地区(2)遺跡分布図



写真図版32 墓目遺跡採取遺物(1)



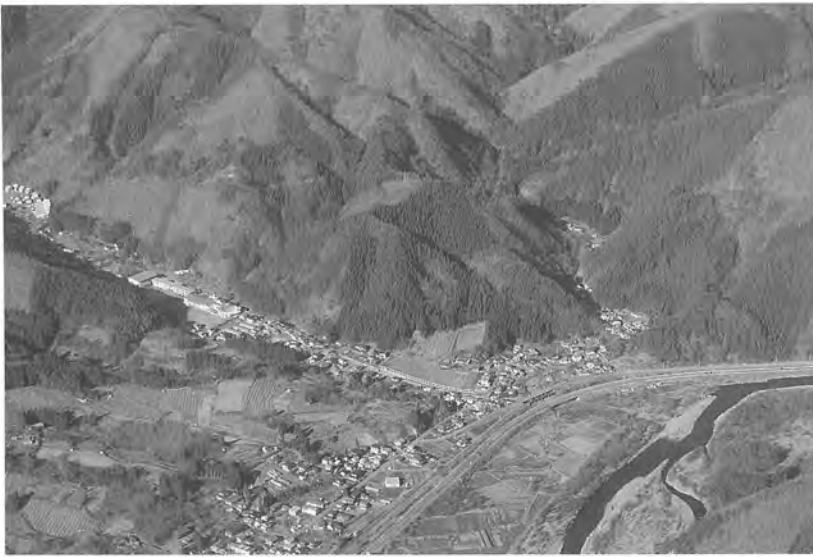
写真図版33 墓目遺跡採取遺物(2)(田鎖洗馬氏寄贈)



第18図 墓目遺跡採取遺物（田鎖洗馬氏寄贈）



写真図版34 墓目遺跡地区遠景(2)
(南から)



写真図版35 墓目館・丹敷館跡
現況（南から）



写真図版36 墓目遺跡現況(1)（南から）

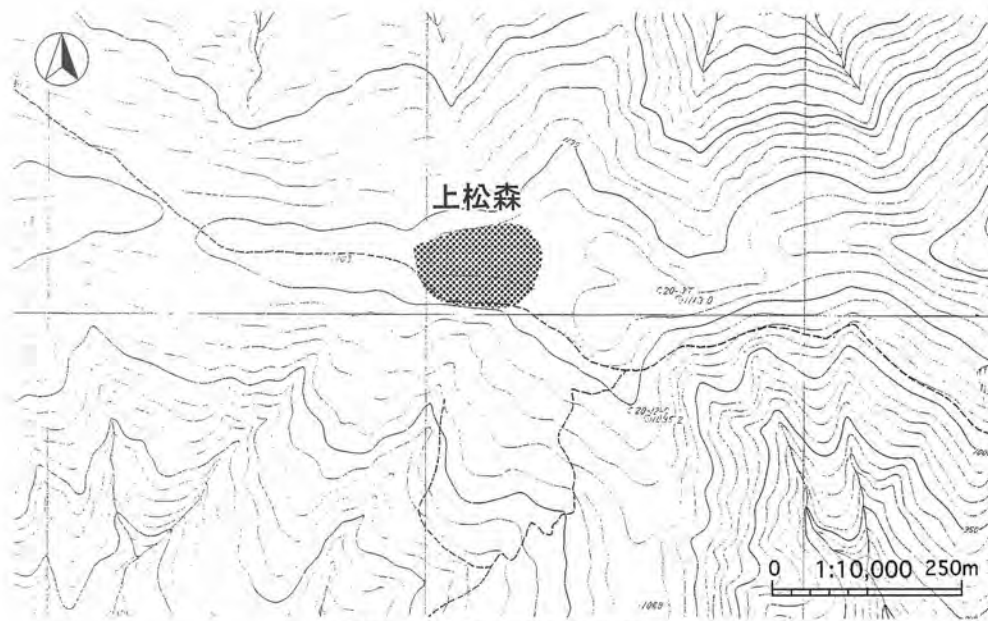


写真図版37 墓目遺跡現況(2)（南から）

わいな
和井内地区(1) (第19図、写真図版38)

かみまつり
●上松森遺跡 (遺跡コード KG97-2095) (所在地 和井内)

和井内牧場内で確認されている遺跡である。標高約1,100mの高所にある。牧場小屋を建てた際、石斧が出土したとのこと。現況は牧草地である。遺跡範囲について、遺跡の東西で高低差あり、西側の比較的平坦な地形部分を遺跡とし範囲を変更した。遺物は踏査するも採取されなかった。



第19図 和井内地区(1)遺跡分布図



写真図版38 上松森遺跡遠景
(写真中央が遺跡・南から)

和井内地区(2) (第20図、写真図版39～46)

●^{いわあなおおや}岩穴大家遺跡 (遺跡コード LF09-0097) (所在地 和井内)

遺跡は岩穴沢に面した平坦地にある。現況は畑地と田圃である。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●^{とつかおちあい}戸塚落合遺跡 (遺跡コード LF09-1053) (所在地 和井内)

遺跡は岩穴沢と戸塚沢の合流点にある。現況は山林である。遺物は踏査するも採取されなかった。

遺跡の範囲について、遺跡とされる東側の斜面は狭い尾根となっている。この地点については遺跡の範囲から除くこととし、比較的平坦な西側の地点を遺跡とした。

●^{ひらかたさわ 1}和井内平片沢 I 遺跡 (遺跡コード LF09-1091) (所在地 和井内)

新規発見された遺跡である。遺跡は、山の東向きの斜面にある。現況は畑地である。遺物は畑地から縄文土器を数多く採取した。

[時代] 縄文時代 (中期・後期) [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●²和井内平片沢 II 遺跡 (遺跡コード LF09-2050) (所在地 和井内)

新規発見された遺跡である。遺跡は、山の東向きの斜面にある。現況は畑地である。遺物は畑地から小破片であるが縄文土器を採取した。

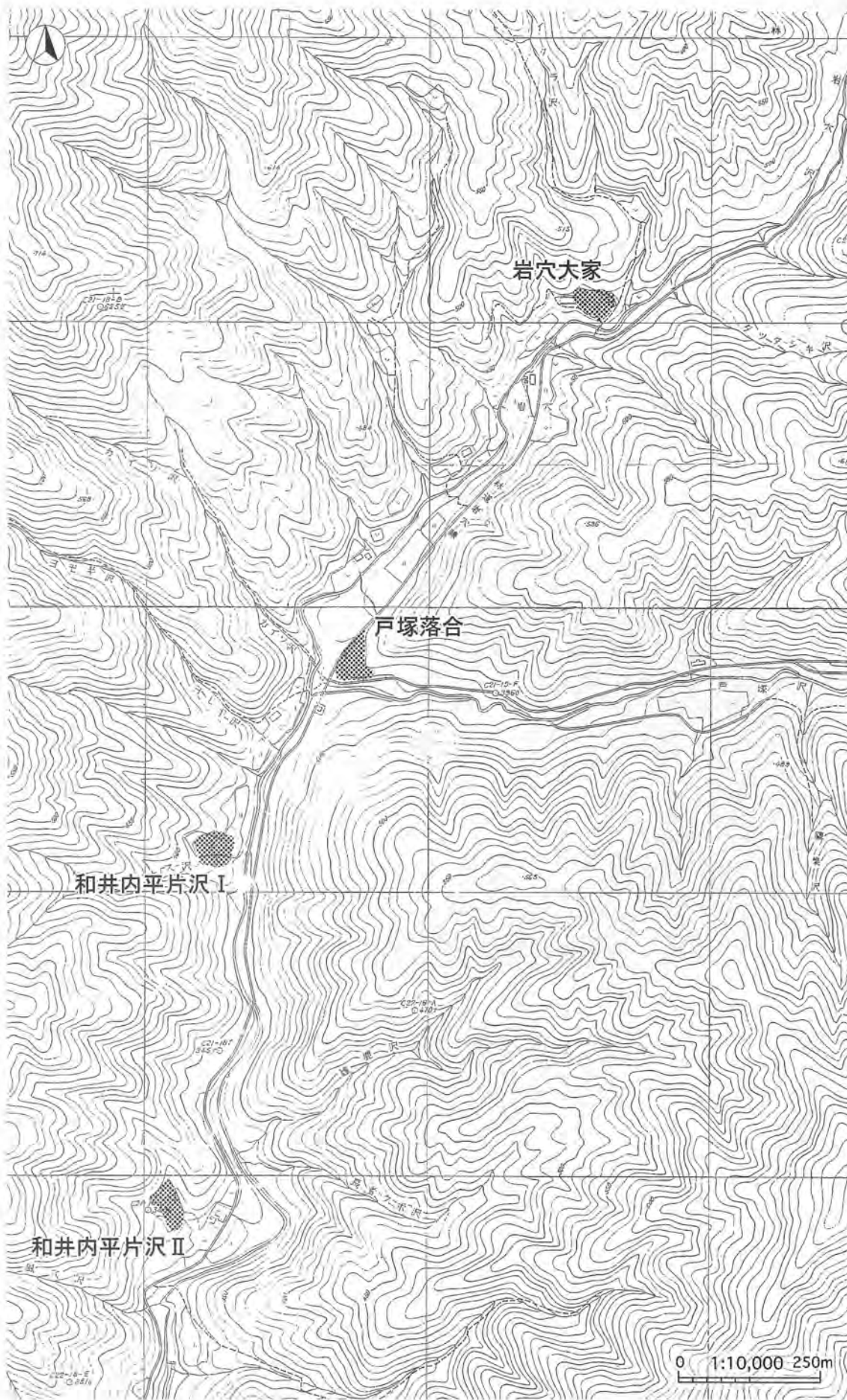
[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



写真図版39 岩穴大家遺跡採取遺物



写真図版40 和井内平片沢 I 遺跡採取遺物



第20図 和井内地区(2)遺跡分布図



写真図版41 岩穴大家遺跡現況(1)
(写真中央の民家付近が遺跡・東から)



写真図版42 岩穴大家遺跡現況(2)
(東から)



写真図版43 戸塚落合遺跡現況
(写真中央の山林が遺跡・南から)



写真図版44 和井内平片沢 I 遺跡現況(1)
(写真左側の畑地が遺跡・東から)



写真図版45 和井内平片沢 I 遺跡現況(2)
(写真中央の畑地が遺跡・東から)



写真図版46 和井内平片沢 II 遺跡現況
(写真中央の畑地が遺跡・東から)

和井内地区(3) (第21図、写真図版47～53)

●^{おいないしみず}和井内清水遺跡 (遺跡コード LF18-0352) (所在地 和井内)

遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は田圃と畑地、一部宅地となっている。遺物は主に遺跡の南側でわずかながら採取できる。採取遺物は縄文土器と鉄滓である。遺跡一帯では、昭和の頃に大規模な圃場整備が行われている。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器、鉄滓

●^{ひらがたきわ 3}和井内平片沢Ⅲ遺跡 (遺跡コード LF18-1308) (所在地 和井内)

和井内平片遺跡から名称を変更する。遺跡は平片沢に面した平坦地にある。現況は畑地と田圃である。遺物は畑地から縄文土器を採取した。遺跡の範囲について、その西側と東側で高低差がある。斜面にあたる西側を遺跡の範囲から除き、遺物が採取された低平な東側部分を遺跡とした。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●和井内西遺跡 (遺跡コード LF18-1335) (所在地 和井内)

遺跡は刈屋川と平片沢の合流点にある。現況は和井内小学校(旧・和井内中学校)が建てられ、遺跡の南半分が畑地としてある。遺物は、この畑地から縄文土器をわずかだが採取した。聞き取りで中学校建設の際、多量の土器が出土し、また、立石もみられたとのこと。

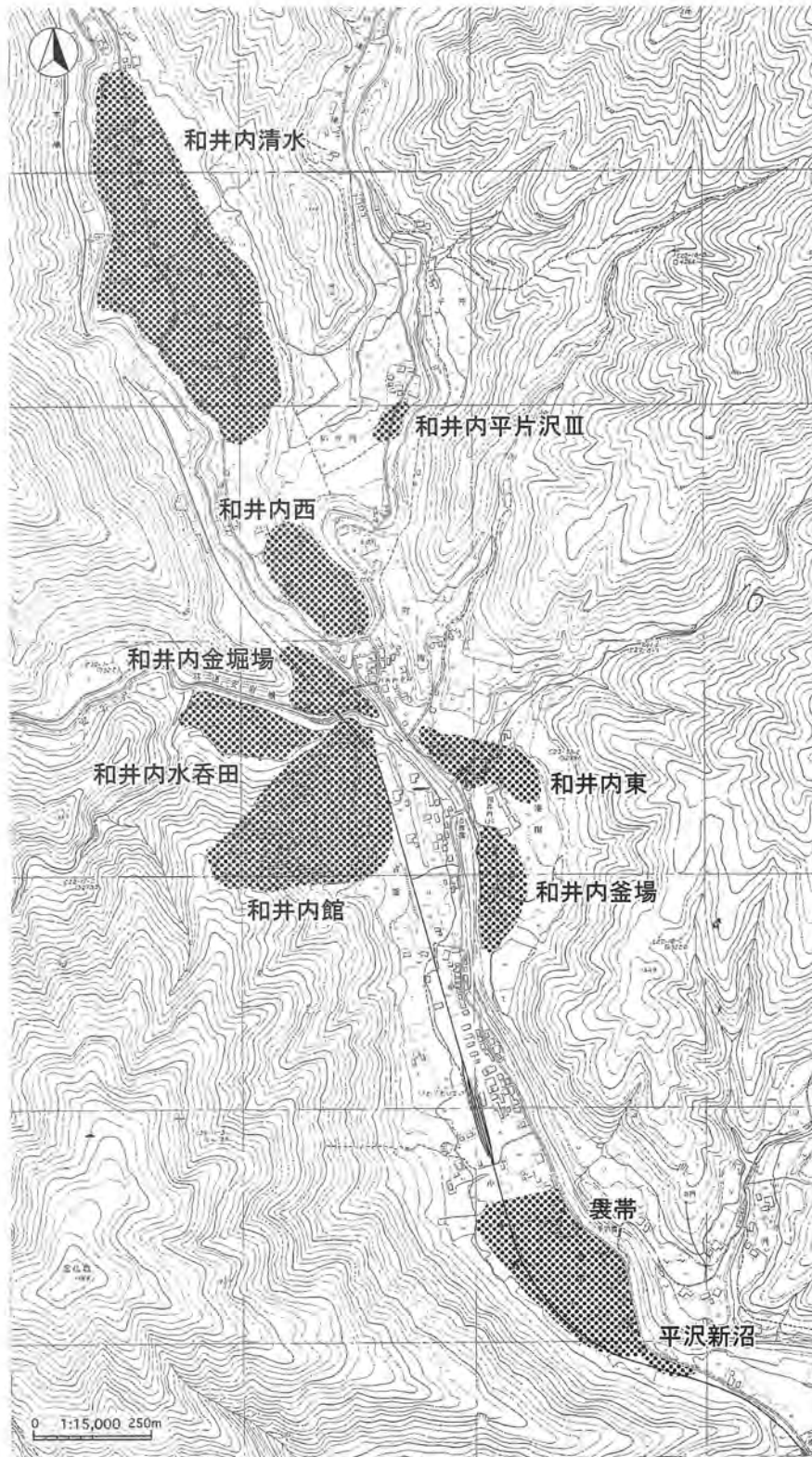
[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●和井内東遺跡 (遺跡コード LF18-1379) (所在地 和井内)

遺跡は刈屋川と伊佐内沢の合流点にある。現況は宅地と田圃、一部畑地である。遺物は、和井内ふるさと会館の北側にある民家の庭で縄文土器を採取した。聞き取りで、和井内小学校(現在の和井内ふるさと会館)建設の際、多量の土器が出土したとのこと。

和井内東遺跡は、平成12年度に宅地造成により新里村教育委員会が発掘調査を行っている。結果、縄文時代後期の住居状遺構、弥生時代中期の竪穴住居跡などが検出されている。

[時代] 縄文時代、弥生時代 [種別] 集落跡 [採取遺物] 縄文土器



第21図 和井内地区(3)遺跡分布図

●和井内釜場遺跡 (遺跡コード LF19-2000) (所在地 和井内)

遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は宅地と畑地である。遺物は畑地から縄文土器を採取する。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●和井内金堀場遺跡 (遺跡コード LF18-1356) (所在地 和井内)

遺跡は刈屋川と安庭沢川との合流点にある。現況は山林で、一部宅地と畑地になっている。遺物は踏査するも採取されなかった。

遺跡の範囲について、西側の斜面部分はその範囲から除き、低平な東側部分を遺跡とした。

●和井内水呑田遺跡 (遺跡コード LF18-1374) (所在地 和井内)

遺跡は、安庭沢川と丘陵の間の平坦な地形にある。現況は田圃と一部荒蕪地となっている。遺跡は踏査するも採取されなかった。

●和井内館跡 (遺跡コード LF18-1395) (所在地 和井内)

中世の城館跡と考えられる遺跡である。現況は山林である。山頂には八幡神社が祀られ、ここから尾根沿いに平場の痕跡が確認できる。館跡からの眺望はよく、和井内集落を一望できる。遺物は踏査するも採取されなかった。

[時代] 中世以降 [種別] 城館跡 [採取遺物] —

●袈帯遺跡 (遺跡コード LF19-2060) (所在地 和井内)

袈帯遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は田圃と畑地、宅地となっている。遺物は点在する畑地で縄文土器を採取する。

袈帯遺跡は、2006年に国道340号道路改築工事により発掘調査が行われ、縄文時代中期を主体とした遺構・遺物が出土した。遺跡の範囲について、この調査成果をもとにその範囲を北側に拡張した。

[時代] 縄文時代 (早期～晩期)・中世・近世 [種別] 集落跡 [採取遺物] 縄文土器

●平沢新沼遺跡 (遺跡コード LF27-0004) (所在地 和井内)

遺跡は袈帯遺跡の南側にある。現況は畑地と山林である。遺物は採取されなかった。



写真図版47 和井内清水遺跡採取遺物



写真図版48 和井内平片沢Ⅲ遺跡採取遺物



写真図版49 和井内東遺跡採取遺物



写真図版50 和井内釜場遺跡採取遺物



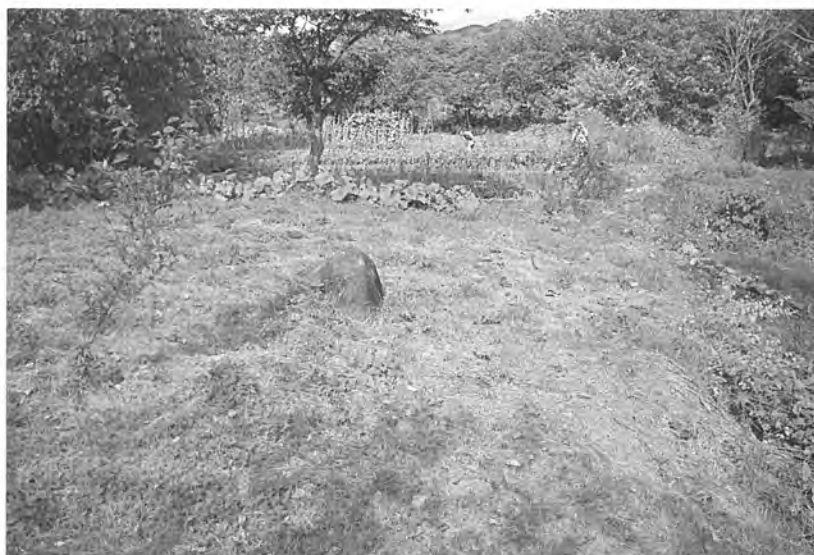
写真図版51 和井内地区遠景
(南から)



写真図版52 和井内地区現況（南から）



写真図版53 和井内清水遺跡現況
（田畑一帯が遺跡・北から）



写真図版54 和井内西遺跡現況（南から）

かりや

刈屋地区(1) (第22図、写真図版55～59)

●永田Ⅰ遺跡 (遺跡コード LF29-0140) (所在地 刈屋)

永田Ⅰ遺跡と永田Ⅱ遺跡を統合する。遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は田圃と畑地、宅地となっている。遺物は、遺跡の中央付近の畑地で縄文土器を採取した。この遺跡の一角は、昭和の頃に大規模に農地造成されていることを聞き取る。

遺跡の範囲について、永田Ⅰ遺跡と永田Ⅱ遺跡は近接した位置にあり地形的にも連続する。また、両遺跡の間の地点で遺物を採取した。これらの状況から永田Ⅰ、Ⅱ遺跡は同一の遺跡であると判断し統合することとした。

永田Ⅰ遺跡については、国道340号線道路改築事業により平成13年、14年に新里村教育委員会が発掘調査を行い、縄文時代後期の竪穴住居跡と土坑跡等を検出している。

[時代] 縄文時代(中期～後期) [種別] 集落跡 [採取遺物] 縄文土器

●永田Ⅲ遺跡 (遺跡コード LF29-0161) (所在地 刈屋)

遺跡は刈屋川と赤根沢との合流点にある。現況は田圃と宅地、一部畑地となっている。遺物は踏査するも採取されなかった。

永田Ⅲ遺跡は、平成14年に国道340号線道路改築事業により(財)岩手県埋蔵文化財センターが発掘調査を行っている。結果、石囲炉や土坑跡(時期不明)、遺物は縄文中期末葉から弥生後期の土器等が出土している。

[時代] 縄文時代(中期末葉)～弥生時代(後期) [種別] 集落跡 [採取遺物] —

●刈屋中里遺跡 (遺跡コード LF29-1137) (所在地 刈屋)

刈屋中里遺跡と刈屋中里Ⅱ遺跡を統合する。遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は宅地と田圃、一部畑地となっている。遺物は点在する畑地から縄文土器を採取した。

遺跡の所在について、分布図では刈屋中里遺跡と刈屋中里Ⅱ遺跡は重複しており、場所によっては二つの遺跡に含まれる状況になっていた。これを修正し、一角を一箇所の遺跡とした。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●刈屋丹野遺跡 (遺跡コード LF29-1260) (所在地 刈屋)

遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は田圃で、一部宅地と畑地になっている。遺物は点在する畑地から縄文土器を採取した。

遺跡の範囲について、従来の範囲よりさらに北側で遺物を採取しており、これに併せて北側にその範囲を拡張した。

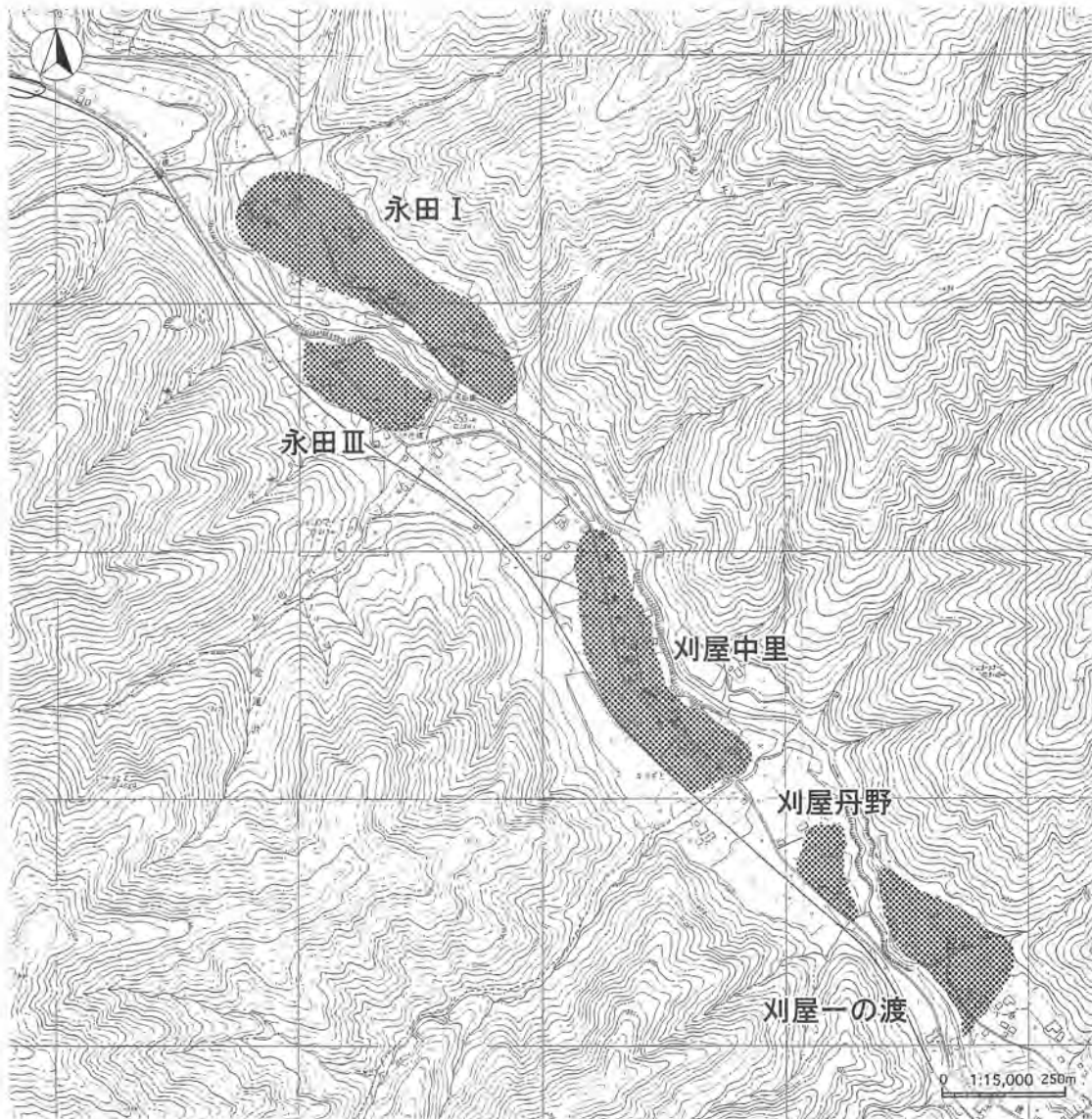
[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●^{かりや いち わたり}刈屋一の渡遺跡 (遺跡コード LF29-1283) (所在地 刈屋)

刈屋川と上ノ沢の合流点にある。現況は田圃と畑地、一部宅地である。遺物は、遺跡の北端部の畑地で縄文土器を採取した。

遺跡の範囲について、従来の範囲よりさらに北側で遺物を採取しており、これに併せて北側にその範囲を拡張した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



第22図 刈屋地区(1)遺跡分布図



写真図版55 刈屋地区(1)遠景
(南から)



写真図版56 永田 I 遺跡採取遺物



写真図版57 刈屋中里遺跡採取遺物



写真図版58 刈屋丹野遺跡採取遺物



写真図版59 刈屋一の渡遺跡採取遺物

刈屋地区(2) (第23～25図、写真図版60～71)

●刈屋日向遺跡 (遺跡コード LF29-2396) (所在地 刈屋)

刈屋日向遺跡と刈屋堅石遺跡を統合する。刈屋堅石の堅は、堅の誤りと考えられる。遺跡は刈屋川に面している。地形は緩傾斜地で西に向かい平坦になる。国道340号線が遺跡の中央を貫くように通っている。現況は田圃で、一部宅地と畑地となっている。

遺物は、点在する畑地から、縄文土器を僅かだが採取する。昭和19年頃は、現在の刈屋生活改善センター北側の畑で数多く土器が散布していたとのこと。

刈屋堅石遺跡と刈屋日向遺跡は、地形的に連続した位置にあり、かつ近接していることからこれらを統合し、併せて遺物の散布状況からその範囲を拡張した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●刈屋館跡 (遺跡コード LF39-0301) (所在地 刈屋)

中世の城館跡と考えられる遺跡である。現況は山林で一部墓地となっている。尾根に沿って平場と考えられる痕跡がみられる。最も高い位置にある平場にはお堂が祀られている。遺物は踏査するも採取されなかった。遺跡は高松館ともいわれている。

遺跡の範囲について、平場跡等の痕跡が確認されなかった西側部分をその範囲から除くこととした。

[時代] 中世以降 [種別] 城館跡 [採取遺物] 縄文土器

●刈屋古館跡 (遺跡コード LF39-0319) (所在地 刈屋)

中世の城館跡とされる遺跡である。現況は、山地部分は山林、南側の平坦地部分は畑地と草地、宅地となっている。山地部分が城館跡とされている。この山地には、その山頂にお堂とこれに取り付く参道があった。お堂付近は平坦に整地されているが、これ以外に人工的に地形を改変したような痕跡は確認できなかった。遺物は南側平坦地にある畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代、中世以降 [種別] 散布地、城館跡 [採取遺物] 縄文土器

●刈屋清水野遺跡 (遺跡コード LG30-0073) (所在地 刈屋)

刈屋道の角遺跡と清水野遺跡を統合する。遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。現況は、遺跡南側が畑地と田圃、遺跡北側は宅地となっている。遺物は、畑地がある遺跡南側で縄文土器を採取した。

刈屋道の角遺跡と清水野遺跡は、地形的に連続した位置にありかつ近接していることからこれらを統合し、併せて遺物の散布状況からその範囲を拡張した。刈屋道の角遺跡については、1996年に発掘調査が実施され、土坑跡、配石遺構、焼土遺構が検出されている。

また、地権者から畑を耕作中に採取したとして、縄文土器、弥生土器、土偶、石器、石製品を見せていただいた。採取地点は地権者宅北側の畑地であると聞き取る。その後、この資料を借用し整理したものを後頁（第25図）に掲載している。第25図1は深鉢で縄文時代中期、2・3は深鉢で中期後葉、4は深鉢で後期後葉、5は壺で晩期、6・7は弥生土器である。8は土偶で縄文時代後期～晩期のものである。

〔時代〕 縄文時代（中期～晩期）、弥生時代 〔種別〕 集落跡 〔採取遺物〕 縄文土器

●^{しもかりやⅠ}下刈屋Ⅰ遺跡（遺跡コード LG30-0087）（所在地 刈屋）

下刈屋A・B遺跡より名称を変更する。刈屋川と沢の合流点にある。現況は宅地と畑地、一部田圃となっている。遺物は、遺跡の北西隅と西側の畑地で縄文土器を採取する。特に遺跡西側の畑地からは、縄文土器が数多く採取できた。第24図は県北バス逢萊橋バス停北側の畑地で分布調査により採取した。深鉢で縄文時代中期のものである。

〔時代〕 縄文時代（中期）〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器

●^こ下刈屋Ⅱ遺跡（遺跡コード LF30-0069）（所在地 刈屋）

新規発見された遺跡である。遺跡は谷地形にある。現況は畑地で、一部宅地となっている。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

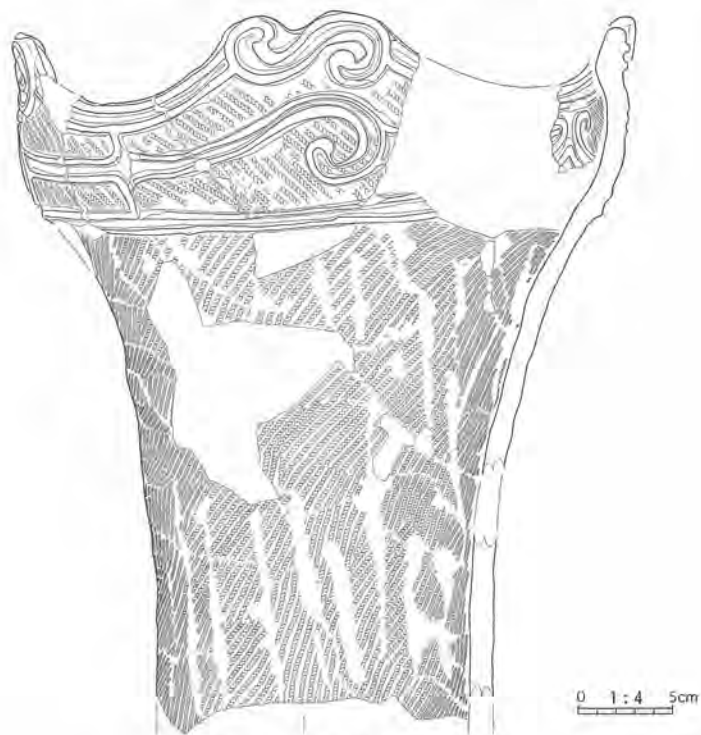
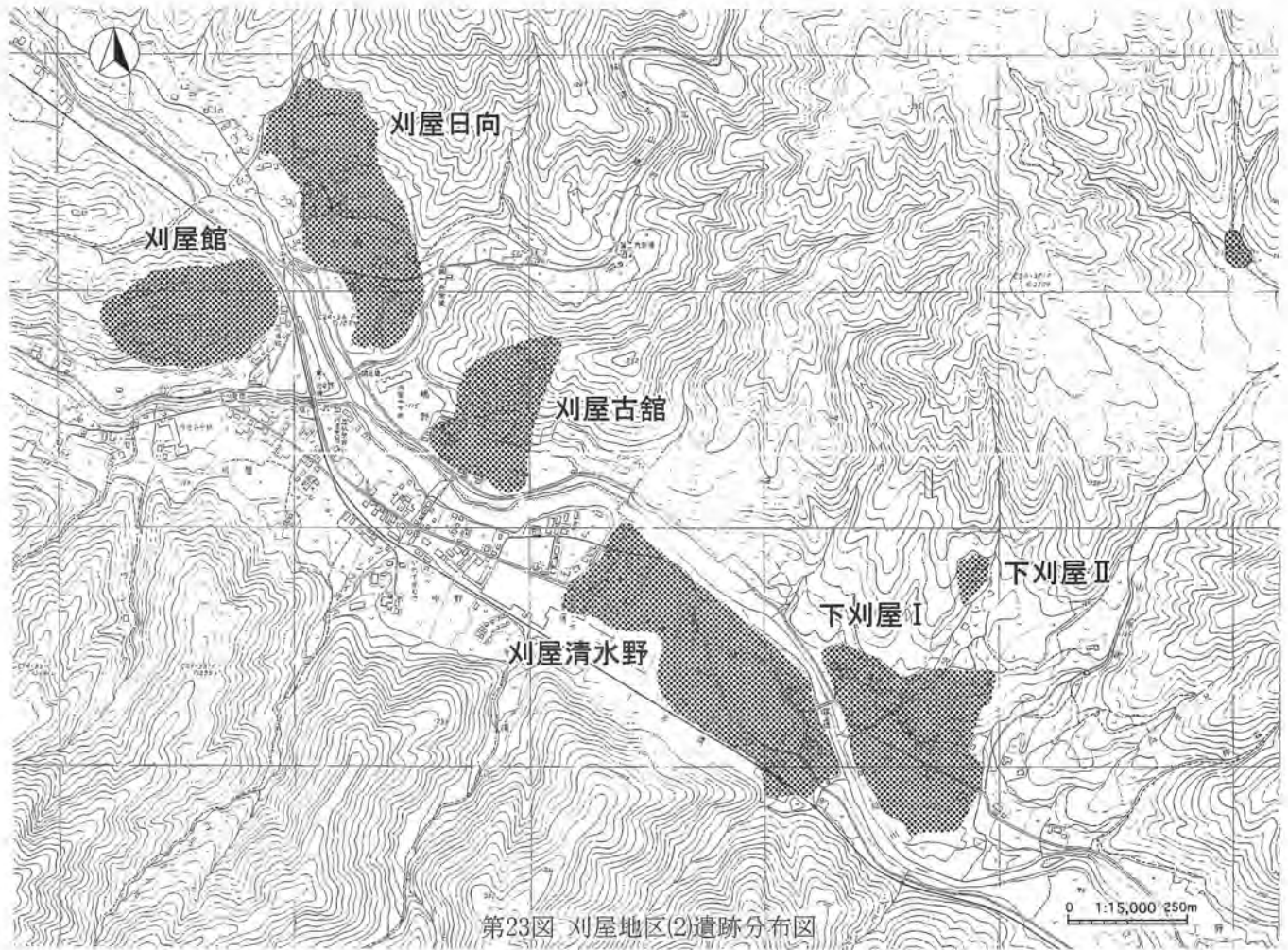
〔時代〕 縄文時代 〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器

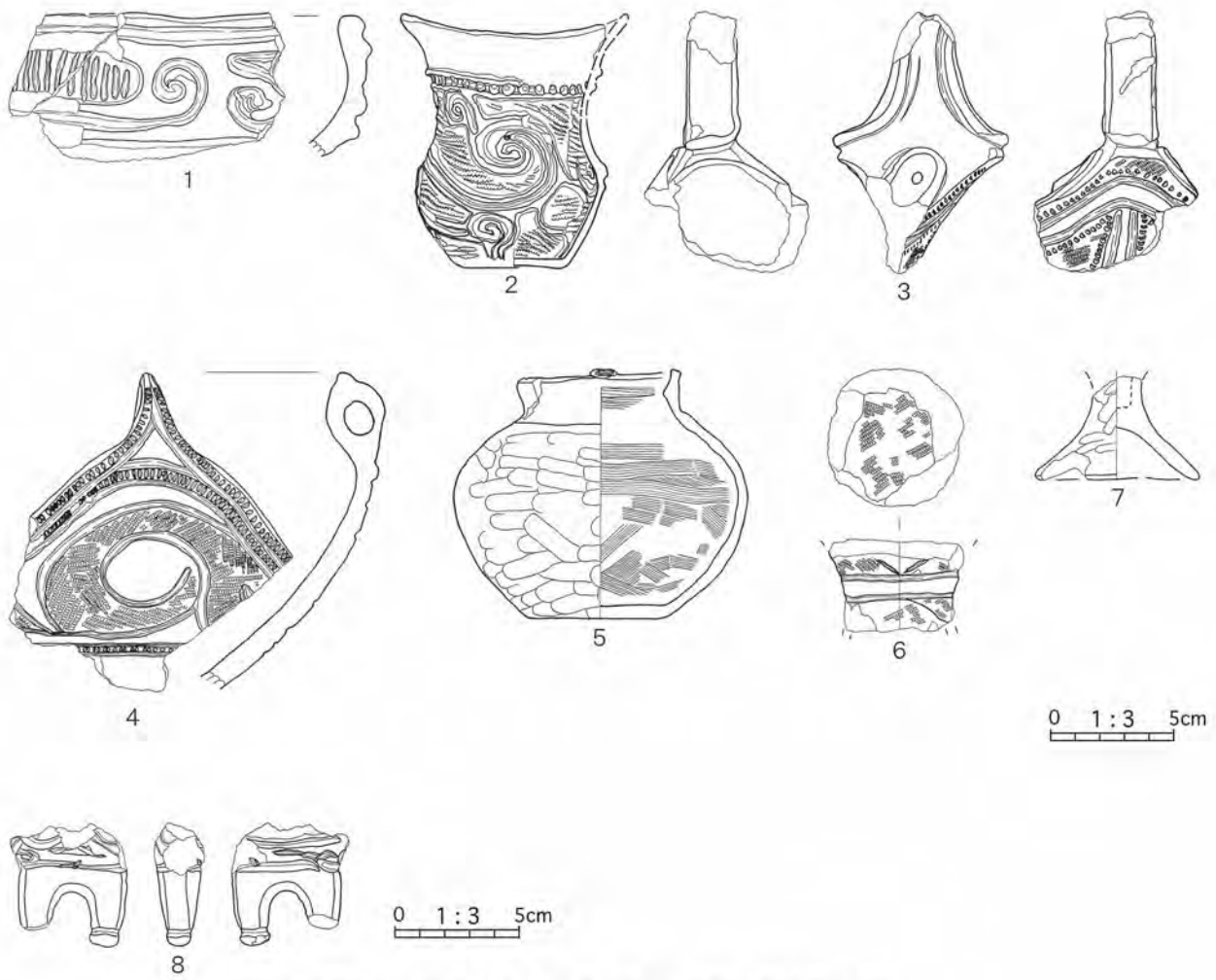
●^{やしきさわ}屋敷沢遺跡（遺跡コード LG20-2195）（所在地 刈屋）

遺跡は新里中学校の東側を流れる山桑沢を1kmほど北上した地点にある。現況は山林である。遺物は、遺跡の脇を通る林道の路面から縄文土器と石器を採取した。土器は小破片である。

遺跡の範囲について、遺跡とする北側の斜面は狭い尾根となっている。この地点については、その範囲から除くこととし、比較的平坦な南側の地点を遺跡とした。

〔時代〕 縄文時代 〔種別〕 散布地 〔採取遺物〕 縄文土器、石器





第25図 刈屋清水野遺跡採取遺物（田畑保男氏所有）



写真図版60 刈屋地区(2)遠景
(南から)



写真図版61 刈屋地区(2)現況 (南から)



写真図版62 刈屋清水野遺跡現況 (北から)



写真図版63 刈屋日向遺跡採取遺物



写真図版64 刈屋古館跡採取遺物



写真図版65 下刈屋 I 遺跡採取遺物(1)



写真図版66 下刈屋 I 遺跡採取遺物(2)



写真図版67 下刈屋 I 遺跡採取遺物(3)



写真図版68 下刈屋 II 遺跡採取遺物



1 縄文土器 (中期)

写真図版69 刈屋清水野遺跡採取遺物(1) (田畑保男氏所有)



2 縄文土器（晩期）



3 縄文土器（中期・後期・晩期）



4 土偶
(後期～晩期・腰～足部)

写真図版70 刈屋清水野遺跡採取遺物(2) (田畑保男氏所有)



5 石器 (石鏃・石匙)



6 石器 (石斧)



7 石製品



8 石製品 (中高石皿)



写真図版71 刈屋清水野遺跡採取遺物(3) (田畑保男氏所有)

刈屋地区(3) (第26図、写真図版72~74)

●¹北山曲沢Ⅰ遺跡 (遺跡コード LF29-0367) (所在地 刈屋)

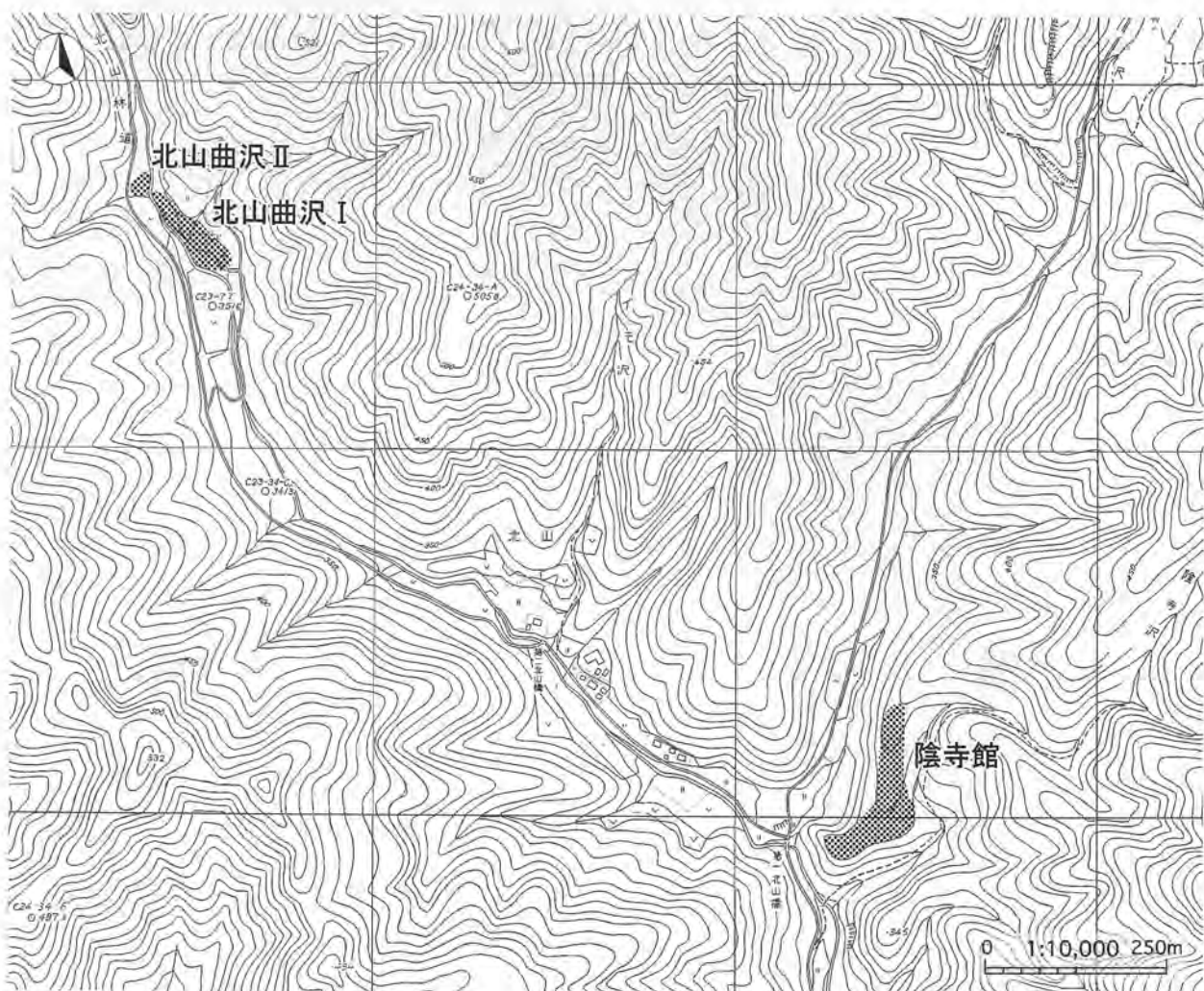
北山曲沢遺跡を北山沢の右岸と左岸で分割し、左岸を北山曲沢Ⅰ遺跡とした。遺跡は北山沢に面した狭小な平坦地にある。現況は田圃と畑地、一部宅地である。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●²北山曲沢Ⅱ遺跡 (遺跡コード LF29-0366) (所在地 刈屋)

北山曲沢遺跡を北山沢の右岸と左岸で分割し、右岸を北山曲沢Ⅱ遺跡とした。遺跡は北山沢に面した狭小な平坦地にある。現況は山林である。遺物は私道の法面から縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



第26図 刈屋地区(3)遺跡分布図

●^{かげじたて}陰寺館跡 (遺跡コード LG20-1047) (所在地 刈屋)

中世の城館跡と考えられる遺跡である。現況は山林である。尾根に沿って平場跡が見られる。その北側では堀切跡と考えられる落ち込みが確認できる。遺物は踏査するも採取できなかった。

遺跡の範囲について、従来の範囲より北側で堀切跡と考えられる痕跡があり、これに併せてその範囲を北側に拡張した。

[時代] 中世以降 [種別] 城館跡 [採取遺物] ー



写真図版72 北山曲沢 I 遺跡現況
(写真中央の民家付近が遺跡・南から)



写真図版73 陰寺館跡現況
(尾根に平場状の痕跡を確認した・北東から)



写真図版74 北山曲沢 I 遺跡採取遺物

もいち
茂市地区 (第27図、写真図版75～80)

●^{けたもんだて}啓多門館跡 (遺跡コード LG30-1185) (所在地 茂市)

中世の城館跡とされる遺跡である。現況は山林である。遺跡周辺も含め踏査するも城館跡に見られる平場跡や、堀切跡などの防御施設の痕跡は確認できなかった。遺物も採取されなかった。

●^{わみくぼ}和美久保遺跡 (遺跡コード LG30-2201) (所在地 茂市)

遺跡は刈屋川に面した平坦地にある。遺跡の南半分は特別養護老人ホームの建設により消失したものと考えられる。現況は畑地と宅地である。遺物は、遺跡範囲より北側の畑地で縄文土器を採取した。

遺跡の範囲について、従来の範囲より北側で遺物が確認されたことから、これに併せてその範囲を北側に拡張した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●^{もいちふるだて}茂市古館跡 (遺跡コード LG30-2262) (所在地 茂市)

中世の城館跡とされる遺跡である。現況は山林である。遺跡周辺も含め踏査するも城館跡に見られる平場跡や、堀切跡などの防御施設の痕跡は確認できなかった。遺物も採取されなかった。

●^{もいちだて}茂市館跡 (遺跡コード LG30-2351) (所在地 茂市)

中世の城館跡と考えられる遺跡である。現況は山林である。遺跡である尾根は比較的平坦になっており、平場の可能性が考えられる。遺物は踏査するも採取されなかった。

[時代] 中世以降 [種別] 城館跡 [採取遺物] —

●^ほのろし場遺跡 (遺跡コード LG40-0113) (所在地 茂市)

遺跡は標高440mの高所にあり、現況は山林である。遺跡である尾根はやや平坦になっている。このほかに平坦な地形は遺跡周辺も含め確認できなかった。遺物は踏査するも確認できなかった。

遺跡の範囲について、概ね丘陵の尾根沿いをその範囲とし、斜面部分についてはその範囲から除くこととした。

●^{もいちうなん}茂市雲南遺跡 (遺跡コード LG40-0324) (所在地 茂市)

洪水対策のための河川工事により消失した遺跡である。閉伊川に突き出た地形が当時あ

り、そこが遺跡であったと聞き取る。遺跡が在りし頃は、土器が採取できたという。

●^{もいらしんぼ}茂市新墓遺跡 (遺跡コード LG40-0352) (所在地 茂市)

遺跡は閉伊川に面した緩斜面にある。遺跡には茂市中学校 (現・新里生涯学習センター) が建てられ、またその南には墓地が造成されている。遺物はこの墓地から小破片の縄文土器を採取した。また、遺跡周辺の畑地からも僅かではあるが縄文土器を採取した。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器

●^{ほろち}褰地遺跡 (遺跡コード LG40-0243) (所在地 茂市)

新規発見された遺跡である。聞き取りで、褰地地区で蔵を建てた時に土器が出たことがあったとの情報を得る。現地にてその蔵と思われる付近を踏査し、畑地から縄文土器を採取した。遺跡の範囲について、遺物が散布する地点を中心にこれと地形的に同じ平坦な地点までをその範囲とした。

[時代] 縄文時代 [種別] 散布地 [採取遺物] 縄文土器



第27図 茂市地区遺跡分布図



写真図版75 茂市地区遠景(南東から)



写真図版76 茂市地区現況(南東から)



写真図版77 震地遺跡現況
(写真中央が遺跡・南から)



写真図版78 和見久保遺跡採取遺物



写真図版79 茂市新墓遺跡採取遺物



写真図版80 襲地遺跡採取遺物

はらたい
腹帯地区 (第28図、写真図版81～89)

●^{はらたいたて}腹帯館跡 (遺跡コード LG40-1067) (所在地 腹帯)

縄文時代の遺跡と中世の城館跡と考えられる。遺跡は、おおむね尾根が城館跡、その南側の平坦地が縄文時代のものと考えられる。現況は尾根が山林、その南側の平坦地は畑地と荒蕪地、一部雑木林となっている。この平坦地の東縁部には市指定文化財 応永石塔婆碑がある。

尾根には平場跡があり、そこに八幡神社が祀られている。この神社のある平場が館跡の主郭と考えられる。この主郭の東西にも平場跡が確認できる。また堀切跡と考えられる落ち込みも確認できる。

縄文時代の遺跡と考えられる平坦地からは、縄文土器と石器をわずかだが採取した。また畑地の所有者から耕作中に拾ったとして石器が寄贈された。

[時代] 縄文時代、中世以降 [種別] 散布地、城館跡 [採取資料] 縄文土器、石器

●腹帯配石遺構群（遺跡コード LG40-1094）（所在地 腹帯）

遺跡は閉伊川に面した平坦地にある。現況は畑地と田圃である。遺跡の中央を国道106号線が通る。遺物は、国道106号線より北側の畑地で縄文土器が数多く確認できた。106号線より南側の畑地では遺物は確認できなかった。

腹帯配石遺構群は、岩手県史にて縄文後期の石造遺構のある遺跡として紹介されている。平成元年と平成2年に文化財保護事業として発掘調査が行われており、立石と配石遺構、古代の竪穴住居跡が検出されている。

〔時代〕 縄文時代（中期～後期）、古代　〔種別〕 集落跡　〔採取遺物〕 縄文土器

●腹帯¹遺跡（遺跡コード LG40-1092）（所在地 腹帯）

腹帯A遺跡より名称を変更する。遺跡は腹帯配石遺構群の西側の平坦地にある。腹帯I遺跡と腹帯配石遺構群は近接するも、その間には10mほどの高低差がある。現況は畑地と田圃、一部宅地となっている。遺物は、畑地から縄文土器を採取した。

〔時代〕 縄文時代　〔種別〕 散布地　〔採取遺物〕 縄文土器

●腹帯²遺跡（遺跡コード LG40-2061）（所在地 腹帯）

新規発見された遺跡である。遺跡は閉伊川に面した平坦地にある。現況は畑地、一部宅地となっている。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

遺跡の範囲については、遺物が採取できた地点を中心に、これと同じ地形の広がりを見まえ範囲を設定した。

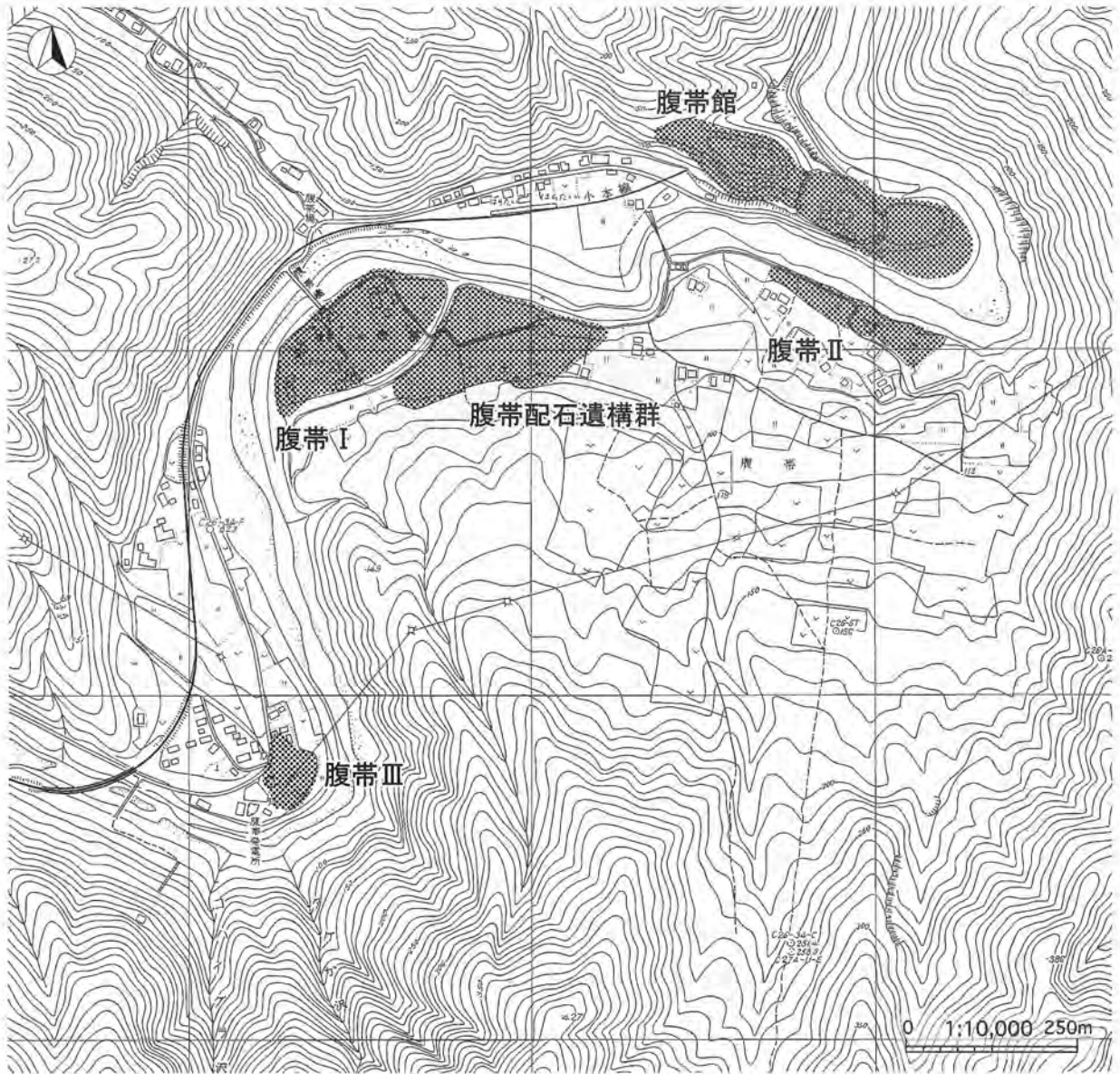
〔時代〕 縄文時代　〔種別〕 散布地　〔採取遺物〕 縄文土器

●腹帯³遺跡（遺跡コード LG40-1099）（所在地 腹帯）

新規発見された遺跡である。遺跡は閉伊川に面した平坦地にある。現況は畑地で一部宅地となっている。遺物は畑地から縄文土器を採取した。

遺跡の範囲については、遺物が採取できた地点を中心に、これと同じ地形の広がりを見まえ範囲を設定した。

〔時代〕 縄文時代　〔種別〕 散布地　〔採取遺物〕 縄文土器



第28図 腹帯地区遺跡分布図



写真図版81 腹帯地区現況(東から)



写真図版82 腹帯配石遺構群現況（西から）



写真図版83 腹帯Ⅱ遺跡現況（東から）



写真図版84 腹帯Ⅲ遺跡現況（北から）



写真図版85 腹帯館跡採取遺物（佐々木吉孝氏寄贈）



写真図版86 腹帯配石遺構群採取遺物



写真図版87 腹帯Ⅰ遺跡採取遺物



写真図版88 腹帯Ⅱ遺跡採取遺物



写真図版89 腹帯Ⅲ遺跡採取遺物

〈参考文献〉

- 1 1974 『北上山系開発地域土地分類基本調査 田老』 岩手県企画開発室
- 2 1991 『土木技術者のための岩手の地質』 (財) 岩手県土木技術振興協会
- 3 1983 『小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 岩手県埋文センター文化財調査報告書第52集
(財) 岩手県埋蔵文化財センター
- 4 2001 『和井内東遺跡発掘調査報告書』 新里村文化財調査報告書第4集 新里村教育委員会
- 5 2008 『袈帯遺跡発掘調査報告書』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第522集
(財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 6 2003 『永田Ⅰ遺跡発掘調査報告書』 新里村文化財調査報告書第5集 新里村教育委員会
- 7 2003 『岩手県埋蔵文化財発掘調査略報(平成14年度)』 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財調査報告書第423集 (財) 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター
- 8 1997 『刈屋道の角遺跡発掘調査報告書』 新里村文化財調査報告書第3集 新里村教育委員会
- 9 1961 『岩手県史』 岩手県
- 10 1990 『腹帯配石遺構群発掘調査概報Ⅰ』 新里村文化財調査報告書第1集 新里村教育委員会
- 11 1991 『腹帯配石遺構群発掘調査概報Ⅱ』 新里村文化財調査報告書第2集 新里村教育委員会

報告書抄録

ふりがな	みやこしいせきぶんぶちょうさほうこくしょ6
書名	宮古市遺跡分布調査報告書6
副書名	
巻次	
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	77
編著者名	安原 誠
編集機関	宮古市教育委員会
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-112-1 Tel 0193-68-9122 Fax 0193-72-2176
発行年月日	平成22(2010)年3月26日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° / ′ / ″	東経 ° / ′ / ″	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
撰待、館の畑、水沢Ⅰ、 加倉、畑、向新田Ⅰ、 Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、Ⅵ、Ⅶ、 Ⅷ、ⅧⅠ、ⅧⅡ、ⅧⅢ、ⅧⅣ、 ⅧⅤ、ⅧⅥ、ⅧⅦ、小堀 内南Ⅰ、小堀内、乙部、 物見峠Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、青 野滝Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、重津 部Ⅰ、乙部野Ⅰ、新田 Ⅰ、滝の沢Ⅰ、墓目二 又Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、荒矢館、 奥堂館、墓目館、丹敷 館、墓目、上松森、岩 穴大家、戸塚落合、和 井内平片沢Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、 和井内清水、和井内西、 東、和井内釜場、和井 内金堀場、和井内水呑 田、和井内館、袋帯、 平沢新沼、永田Ⅰ、Ⅲ、 刈屋中里、刈屋丹野、 刈屋一の渡、刈屋日向、 刈屋館、刈屋古館、刈 屋清水野、下刈屋Ⅰ、 Ⅱ、屋敷沢、北山曲沢 Ⅰ、Ⅱ、陰寺館、啓多 門館、和見久保、茂市 古館、茂市館、のろし 場、茂市雲南、茂市新 墓、妻地、腹帯館、腹 帯配石遺構群、腹帯Ⅰ、 Ⅱ、Ⅲ	いわてけんみやこしいせきぶんぶちょう 岩手県宮古市田老 あざかたきまき かみせつたい 字片巻、上撰待、 しもせつたい せつたい 下撰待、撰待、 ほしやま ほらいかわ みずさわ 星山、弘川、水沢、 みずさわみなみ くるみはた 水沢南、胡桃畑、 かみおき はた わかいしんてん 上沖、畑、向新田、 いわせばり こぼりないみなみ 岩瀬張、小堀内南、 おもつべきた あおのたき 重津部北、青野滝、 あおのたきみなみ おもつべ 青野滝南、重津部、 おとべの たき さわ 乙部野、滝の沢、 しんてん 新田 いわてけんみやこしい 岩手県宮古市 ひきめ わい 墓目、和井内、 かりや もいち はらたい 刈屋、茂市、腹帯	03202				191112 ~191128 201107 ~201212 211013 ~211109		

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
	散布地 集落跡 城館跡	縄文時代 中世		縄文土器、石器、 鉄滓	

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

1 1979	『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』	45 1995	『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・塚ノ神遺跡-市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』
2 1980	『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』	46 1995	『花原市遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』
3 1983	『宮古市遺跡分布調査報告書1』	47 1995	『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』
4 1984	『宮古市遺跡分布調査報告書2』	48 1996	『大付遺跡-平成5年・6年度発掘調査報告書-』
5 1984	『赤前遺跡群第1次・第2次発掘調査報告書』	49 1997	『花原市遺跡-平成8年度発掘調査報告書-』
6 1985	『宮古市遺跡分布調査報告書3』	50 1997	『白石遺跡-第6次発掘調査報告書-』
7 1985	『金浜館跡発掘調査報告書』	51 1998	『赤畑・天神山・山口館-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
8 1986	『宮古市遺跡分布調査報告書4』	52 1998	『藤畑遺跡-平成9年度発掘調査報告書-』
9 1986	『宮古市遺跡分布図-昭和60年度版-』	53 1999	『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小畑Ⅲ遺跡-水産課津軽石環状整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
10 1986	『中谷地・島田遺跡調査報告書』	54 1999	『千鶴Ⅳ遺跡-水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書-』
11 1987	『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』	55 1999	『崎山貝塚-第12次・13次内容確認調査概報-』
12 1987	『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』	56 2000	『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡-特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
13 1987	『崎山遺跡群Ⅰ-昭和61年度発掘調査概報-』	57 2002	『山口館跡-北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
14 1988	『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(堀合館)』	58 2002	『小沢Ⅱ大上遺跡-市内遺跡発掘調査報告書2-』
15 1988	『崎山遺跡群Ⅱ-昭和62年度発掘調査概報-』	59 2003	『大又沢Ⅱ遺跡-東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書-』
16 1989	『千鶴遺跡-昭和62年度発掘調査報告書-』	60 2003	『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡-市内遺跡発掘調査報告書3-』
17 1989	『トロノ木Ⅰ遺跡-第1~7次発掘調査報告書-』	61 2003	『早稲橋Ⅱ遺跡第6次調査-市内遺跡発掘調査報告書4-』
18 1989	『崎山遺跡群Ⅲ-昭和63年度発掘調査概報-』	62 2003	『下在家Ⅰ遺跡-平成14年度発掘調査報告書-』
19 1989	『高根遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』	63 2004	『大塚Ⅱ遺跡・平浜遺跡-市道閉伊崎線改良工事関係発掘調査報告書-』
20 1989	『狐崎Ⅱ遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』	64 2005	『弘川館跡-瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書-』
21 1989	『崎山トロノ木Ⅳ遺跡-昭和63年度調査報告書-』	65 2006	『高浜Ⅵ地神遺跡-高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書-』
22 1990	『狐崎遺跡-平成元年度発掘調査報告書-』	66 2006	『崎山貝塚第20次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第7次調査-市内遺跡発掘調査報告書5-』
23 1990	『崎山遺跡群Ⅳ-平成元年度発掘調査概報-』	67 2006	『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡-市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書-』
24 1990	『磯鶏館山遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』	68 2006	『木戸井内Ⅳ遺跡-宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書-』
25 1990	『鎌ヶ崎館山貝塚-平成元年度発掘調査報告書-』	69 2006	『菅ノ沢遺跡発掘調査-市内遺跡発掘調査報告書6-』
26 1991	『崎山遺跡群Ⅴ-平成2年度発掘調査概報-』	70 2007	『山口館跡-市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書-』
27 1991	『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群-平成元年・2年度発掘調査報告書-』	71 2007	『近内館跡-宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書-』
28 1990	『熊野町遺跡-昭和63年度発掘調査報告書-』	72 2007	『牛沢遺跡・大付遺跡第11次調査-市内遺跡発掘調査報告書7-』
29 1991	『弘川Ⅰ遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』	73 2007	『弘川館跡第2次調査-宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書-』
30 1992	『金浜Ⅰ遺跡(昭和58年度)・大付遺跡(平成2年度)発掘調査報告書』	74 2008	『荷竹日向Ⅳ遺跡-市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書-』
31 1992	『重茂館遺跡群-第1次調査報告書-』	75 2008	『宮古市遺跡分布調査報告書5』
32 1992	『黒森町Ⅰ遺跡-平成2年度発掘調査報告書-』	76 2009	『崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器篇)』
33 1992	『高根遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』		
34 1992	『鯉沢遺跡群-平成2年度発掘調査報告書-』		
35 1992	『大付遺跡-平成3年度発掘調査報告書-』		
36 1992	『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡-農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書-』		
37 1992	『崎山遺跡群Ⅵ-平成3年度発掘調査概報-』		
38 1993	『萩沢Ⅱ遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』		
39 1993	『早稲橋Ⅱ遺跡-第1次・第2次発掘調査報告書-』		
40 1993	『崎山遺跡群Ⅶ-平成4年度発掘調査概報-』		
41 1994	『崎山遺跡群Ⅷ-平成5年度発掘調査概報-』		
42 1995	『赤前Ⅰ牛子沢遺跡-平成4年度発掘調査報告書-』		
43 1995	『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』		
44 1995	『崎山貝塚-範囲確認調査報告書-』		

宮古市埋蔵文化財調査報告書 77

宮古市遺跡分布調査報告書 6

印刷・発行 平成22(2010)年3月26日

発行 宮古市教育委員会

〒028-2101 岩手県宮古市茂市2-112-1

TEL 0193-68-9122 Fax 0193-72-2176

印刷 ショウジ印刷株式会社

〒027-0084 岩手県宮古市末広町4-10

TEL 0193-62-1326 Fax 0193-62-0271

